明治三十三年八月廿五日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百貳拾九號

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第百貳拾九號　目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山形支會講師淺田醫學士の轉任を送る

岩崎こゝ子　松江まつ子　溝尾まさ子　菅井ひさ子

千葉てる子（元幹事）　橋口さだ子　吉野ふゆ子　山田すい子　沼宮内たみ子　溝淵こまゑ子　木村つれ子



淺田醫學士は本會の新潟支會及山形支會創設に盡力せられし人

明治三十三年五月撮影

志賀さく子　幹事北川さだ子　幹事國井よしを子　幹事沖野りう子　大森まつ子　加藤やす子　田中關末子

西野きぬ子　副會長安村勝子　會長關むら子　淺田さみ子　淺田決君　川上きん子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百二十九號
（明治三十三年八月二十日發行）

講演

音聲の衛生

醫學博士　岡田和一郎君述
佃　速記事務所員速記

私は四年程前に、此衛生會に於て色々のことを御話し申した、其時分には唯今と專門が違ひまして、外科の方の一人でございましたから、其方の關係から種々御話を致したことでありましたが、此度は耳鼻咽喉科、即ち耳と咽喉と鼻との專門に移りまして、其方の研究を歐羅巴で致して今度歸りましたに就きましては、此專門上の御話を致す爲に又四年を經て此貴い所の會場に臨むの榮を得、且又其專門上のことを御話し申して皆樣の御清聽を煩はすことを得るのは非常に私の光榮と存じます、それで又是から先き私の專門に關係致しまして、御婦人方の特に御注意を仰ぎたい事が澤山ありますからして、何れ追々に又重要なる問題に付ては御邪魔に出て御話をする積りでございますが、今日は茲に揭げてあります通り、音聲の衛生と云ふことに付きまして皆さんの御注意を仰ぎたいと存じます。

此音聲の衛生と申しますことは、人間の生活に取つて隨分重要なる關係を有つて居ります、即ちそれは直接と間接との區別がありまして、直接に此音聲と云ふものが非常に人生の幸不幸に關係があります、即ち直接の關係と云ふのは何う云ふことであるかと申しますると、人間と云ふものは音聲が朗らかであつて極く美麗の音聲を有つて居ると、非常に其生活が愉快であります、即ち日本でも近頃は「ミューヂ

ツク」即ち音樂の思想が大分這入つて來ました、音樂と云ふものは美術の一つでありまして、音樂の思想のない者は美術を理解しないと認めて居ると云ふことで、文明國では音樂の思想の無い者は大變に擯斥されます、故に種々の學問をすると同時に音樂の思想を養成して、更に音樂を耳で聽き分けるばかりではなく、自分の咽喉を以て音樂の音を拵へると云ふことに注意をしなければなりませぬ、乃ち音聲は其音樂を作くる本でありますからして、平生に咽喉からして出る音が音樂に適つた音が出れば則ち美術に適ふた音聲である、其美術に適ふた音聲を有つて居る人々は此天然の樂みを樂むことが出來ます、故に美聲を有つて居りますれば即ち一家族に於て美聲を有つて居る者が一人あれば、一家内中擧りて樂むことが出來る、若し反之して一家族の内に、一人でも話し聲が皺嗄れて居て美術的の音が出ないときには、其音聲を聽く人々は非常に不愉快を感じるでありましよふ故に人間として生れて來た以上は、成べく美術的の音聲を出さなければ、其生活を樂むことは出來ない。

それから又音聲と云ふものは、己れの意思を他へ傳へる道具であります、心の中で思つて居ることを人に理解させやうと云ふ時に音聲を出して人に傳へるのであります、音聲を美く發せない人は、自分の思ふことを十分に人に理解させることが出來ない、又た音聲を巧く發することが出來るならば、人を自然に感動させる所の能力を有して居る人であります、即ち好い聲で好く音聲を使つて言つた時には、人を感動さして自分の思ふことを成就させる、又之に反して惡ひ音聲であつたなれば、人を感動せしめざるばかりでなく、自分の思ふことも成就しない、故に音聲の美にしてさうして巧く使ふ人は、自分の思ふ

事を人に傳へ、其人を感動させてさうして思ふことを成就させると云ふやうな大層に有難い所の効能があります、さう云ふ次第でありますから、此音聲の好いと惡ひと云ふことは、人生に取つて直接に大變な關係があります、乃ち最も此關係を有して、大切にしなければならぬと云ふ人は何う云ふ人であるかと云ふと、音聲を直接に使ふ人々であります、即ち男子の方で申しますると國會の議員になつて、さうして國會議場に於て演説をする時は、誰でも自分の思ふことを人に採用させやうと思へば極く好い聲を出さなければならぬ、即ち國會議員となるには音聲が好くなければならぬ、それから又教師となつて人に物を教へるにも、音聲が好くなければ十分に教へ傳へることが出來ませぬ、それから又僧侶神官となつて說教するにも、矢張り自分の思ふことを十分貫徹して他を感動させ、例へば佛教なる佛樣神道なら神樣の貴いと云ふことを承知させなければならぬからして、僧侶神官となるにも矢張り音聲が好くなければなりませぬ、斯の如く言葉で世の中に立つ所の人々は音聲の衛生と云ふものを大切にしなければなりませぬ、それから又直接に音聲を以て自分の職業とする所の人々は、只今申した所の男の人達も矢張りそれが、職務であるけれども、是れは直接に音を出すことを以て職務とするのではない、自分の意思を人に傳へることを以て職務とする人でありますが、其他に役者とか義太夫語りとか云ふ藝人、さう云ふ方の人々は音聲の美なるを、自分の衣食の爲にする職業として居るのでございます、斯ふ云ふ人々が若し音聲を痛めて、音聲が巧く出なかつた時には職務がなくなるのです、故に斯ふ云ふ風な人に取つては大層に必要で、音聲の美と云ふことは其人の財產である、又其人の生命でありますからして、斯う

云ふ風な人に取つては殊更に音聲の美と云ふことに心を用ゐて、音聲の衛生に重きを置かなければなりませぬ。

それから又間接の必要と申しますのは、どう云ふ次第であるかと申しまするど、音聲が惡るくなつて聲が嗄れると云ふのは、決して健全なる咽喉、即ち健全なる咽喉には決して惡るい音聲と云ふものがある筈はないので、聲が嗄れゝば必ず咽喉に病氣がある、咽喉に種々の惡るい病氣が起るか、或は病症が其處にあると云ふ證據でございます、こゝに一人聲の嗄れて居るのがあれば、必ず其人の咽喉には普通に云ふ加答兒と云ふ病氣か、或は結核と云ふ病氣か、或は黴毒か、何か一つの病氣があるに違ひない、又其病氣が無いにした所が、既に聲が嗄れて居れば普通の健康躰には病毒が這入つて來ないけれども、間接に病毒の這入る門戸を開いて居るのでございます、故に音聲が嗄れると云ふのは、第一に申した直接の關係で、職務上若しくは生活上に差支はあるけれども生命には別條ない併し間接に惡い病氣が來るか若くは既に來て居るかの現象で、聲が嗄れて居ると云ふと唯歌はずに居れば宜い、話をしなければ宜いと云つて安心は出來ないので、さうすれば命に係るやうな惡い病氣になるのでありますから、間接にさう云ふ關係があると云ふことを考へて、それを直す方針を取らなければなりませぬ。

其方針として一番宜いのは、聲を嗄さぬやうにする所の衛生に注意するに若くはないのでございます、それ故に殊に音樂の思想に富まれ、音樂を貴ばれ、又皆樣の小さい御子樣方にも音樂の養成をしやうと云ふ御念慮のある皆さんでございますからして、特に音聲の衛生と云ふことを聞いて戴きたいのでございます、さうして音聲を好くし、それから隨つて一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家園樂の中に在つて、皆好い聲で愉快に樂む、それから、又自分の思ふ事を十分人に傳へて其人を感動させ、自分の思ふことを成就すると云ふことも出來る、又咽喉を健全にして悪い病氣が來ないと云ふやうにして戴きたいが爲に、好んで此音聲の衛生と云ふ問題を出して御話する次第であります。

そこで此音聲の衛生を圖りますには、種々の方面からして圖らなければなりませぬ、それを極く分り易く說明致します爲に、音聲の生理と云ふことを簡單に申上ることに致しませう、音聲と云ふものは是れは全躰圖でも持つて來て御目に掛けたいと思ひましたが、出來て居りませぬから仕方がありませぬが、先づ音聲の出來るのには種々の身躰の部分が入用であります、即ち第一には胸膈です其次は喉頭と咽頭、それから口腔及び鼻腔是だけが入用でございます、鼻と口と咽頭、即ち口の方から見える所の此咽頭、それから喉頭（咽笛）、それから胸膈、是だけの場所に若し一つでも缺損があつて作用が不十分であつたならば決して好い聲は出來ませぬ、それで好い聲を作るには必ず十分に空氣を吸ひ、さうして空氣を胸膈へ吸ひ取つてから、其空氣が即ち此狹い喉頭の中にある所の聲帶と云ふ極く堅い肉が二つ並んで居る、其間を空氣が通つて往くのであります、胸膈の力で吹き出す空氣が其間を通つて往くのです、丁度三味線の糸が觸れるやうな具合に空氣が觸れて往く、それで「ア」とか「イ」とか云ふ斯う云ふやうに音が出る、其音が喉頭だけを通つた時には母音だけしか出來ない、其母音が咽頭、鼻咽腔、鼻腔若くは口の中へ這つて來て、而して是等の部分に於て或は色々に膨脹れて居る所へアイウエオの音の出來たのがやつて來て、それに衝き當つて、其衝當つた內に色々の音を輔けて來て、さうして始めて好い音が出來

ます、即ち例を言へば私が口笛を吹く（此時辯士口笛を吹いて實例を示す）此處を肺臟と見做せば、此指の二ッの間を風の通るのが聲帶、こゝの手の開けたり閉じたりするので音が高くなつたり低くゝなつたりする、即ちこゝの洞穴が大きくなつたり小さくなつたりするのが、即ち口とか鼻とか云ふ部分になるのであります、即ち喉頭を通るまではどの人も大差なけれども、咽頭や口の形狀等に依つてそこへ音が觸れて、さうして輔音を得て或は美聲となり或は惡聲となつて出て來る、それが即ち生理であります、それ故に若し此生理を理解してさうして聲を好くしやうと思つたならば、第一に鼻が健全でなければならぬ、口が健全でなければなりませぬ、それから又鼻の奥の方即ち鼻咽腔か健全で、それから咽頭が健全であると云ふやうに、總ての部分が健全でなければなりませぬ、それで若し鼻が詰つた時には、例へば歌を唄ふ人とか或は藝人とかゞ、鼻が詰つて居ると其人の音聲と云ふものは咽喉では或は母音だけは好い音が出來るか知れませぬが、輔音即ち鼻で出來る所の音が、もう鼻が詰つて鼻へ出ないからして美音が出來ない、妙な音になつて仕舞つて、決して音樂的の音にならない、又鼻が詰らないでも鼻の穴が狹ければ矢張り本當の音が出ない、それから咽喉の穴が狹くつても本當の音が出ませぬ、又歐羅巴の子供は十人寄れば半數までは鼻咽腔内の扁桃腺の肥大症を有して居ります故に歐羅巴の子供は多くは口で呼吸をして鼻が塞つて居るそんな子供は皆な變な鼻聲を放つのみにて其儘にては到底美い聲を出すことが出來ませぬさう云ふ者を音樂學校に遣つて、十年二十年仕込んでも本當の音を出すことは出來ませぬ、さう云ふ子供を醫者の處へ連れて往つて診察をして貰ふと、其鼻の中には腫物が出來て居つて、

本當の音を發することが出來ないと云ふとが明りますさう云ふ風な原因からして空氣が鼻に通じないのですから、どうしても鼻咽腔内の病氣を取つて仕舞はなければ完全な音を出すことが出來ない、さうして風が鼻の中に通じるやうになつて始めて本當の音が出るのであります、是れは皆さん方の御注意で防ぐことが出來ない者で、もう一旦病氣になつて仕舞たら仕方がないから、醫者に掛つて、さうして鼻が塞つて居るならば鼻を直して貰ひ、咽喉が悪るければ咽喉を直して貰ふと云ふやうにするより他に仕方がないので、是れは衛生をやつた所が既に病氣になつてからだから所詮仕方がありませぬ、それで衛生上に取つて必要なものはどんなものであるかと云ふと、一番平生の生活上に注意をしなければならぬのは空氣であります、即ち多量に空氣を胸に吸取つて、さうして其空氣を力強く喉頭に押出して、今の通り斯ふ云ふやうに「ホー」と吹き出す時に、此二つの指の間を通つて往く所の空氣、即ち原動力となる所の空氣と云ふものを充分胸に取込む方法を圖らなければなりませぬ、それには胸膈を健全に保ち胸筋を強く致しそれから又此音を出す聲帶の健全を圖らなければなりませぬ、其健全を圖るにはどうするかと云ふと、一番宜いのは矢張り宜しい空氣を多量に胸の中に吸込むのでございます。

偖て好い空氣を多量に吸込には何うするかと申ますと、是はどうしても口で呼吸をしては往けませぬ、鼻で極く清潔なる空氣を澤山に吸込むことを稽古しなければいけませぬ、鼻で空氣を吸ふのは何う云ふ譯で好いのかと云ふと、即ち空氣と云ふものは、通常戸外の空氣はどんな好い空氣でも多少は不潔であります、幾分か其中に塵が這入つて居ります、故に其空氣が咽喉へ這入つて肺臓まで達するまでに、若

しロから空氣を直ぐに吸ふ時は、空氣を漉す塲所がないから穢ない儘で肺臓へ這入る、其這入る途中に狭い聲帯と云ふ塲所があつて其處を通つて往くのですから、一部は聲帯の中に塵が這入り、一部は肺臓の中に這入つて仕舞ひます、さう云ふ譯ですから空氣を直接に口から吸ふと聲帯に病氣が起つて來ます、聲帯に塵が這入つて仕舞ふと喉頭加答兒など、云ふ病氣が起ります、又肺の中にも塵が這入つて居れば、氣管支加答兒とか或は肺炎とか云ふになりますから、必ず清潔に漉した所の空氣を吸ふやうにしなければなりませぬ、そこで人間の身体には天然の鼻と云ふものがある、其鼻の中には鼻の道と云ふものがあつて、其道は眞直な道ではなく色々に屈曲つて居つて、狭い處もあり廣い處もあり、又御婦人でも誰でも多少の微毛がある、それで空氣が不潔であつても其鼻からして鼻咽腔を通るのですから、大變に長い道を通る、此屈曲して居る長い道を通る間に空氣を漉して仕舞ふのであります、人間の鼻の中を見ればどんな清潔な人でも塵埃が澤山溜つて居る、即ち空氣を漉して往つた後に殘つた塵埃が溜つて居ります、天然に塵埃を漉す所の道具を鼻に於て備へてあります、それで此鼻で呼吸をすることを力めて往きますれば、塵埃を胸の中に吸ひ込んだ爲に喉頭に病氣を來たすと云ふ如き事を免れることが出來るかも知れませぬ、其からもう一つは人間の身体の中に吸ひ込む空氣は、一定の温度を有つて居なければなりませぬ、冬の日に戸外の風は零度以下の風が吹く、其冷たい空氣を口からして吸ひ込んだ時には、忽ち風を引いて喉頭加答兒を起し、若くは肺を冷却してそれが爲に所謂感冒、氣管支加答兒、或は喉頭加答兒に罹る、即ち寒さの強い時に若し鼻で呼吸をする時は、其空氣は鼻から喉頭を經て肺へ往くまで

の道が、唯今申した通り迂曲回轉して居る長い道であるから、其道を通る中に冷へて居る空氣が大變に温められる、それで温められてから肺へ這入る時分には殆ど適度であつて、自分の身軆の温度と一致した温度に空氣が温められて胸の中に這入るのであります、それ故に鼻で空氣を呼吸致しますれば、風を引く點も餘程に防ぐことが出來ます。

それから身軆に呼込む空氣は、一定の濕潤、即ち濕ふて居なければなりませぬ、乾燥いた空氣を吸ふと軆内の水分を取られて仕舞つて、咽が乾くとか喉頭が乾いたりして、遂には矢張り喉頭加答兒や氣管支加答兒と云ふやうになる、それ故に空氣が身軆の水分を引去らないやうに、一定の濕潤の度を有つて居なければなりませぬ、此方法も矢張り口から直接に呼吸をすると、外の乾いた空氣を直ぐに吸ふからして咽喉はカラ〳〵して來る、併ながら若し鼻で呼吸をすれば鼻の道は唯今申した通りに大變長い、さうして鼻の中には本來粘液と云ふものがあつて非常に濕つて居る、其粘液で濕つて居る所の長い鼻の道を空氣が通つて往く間に、チヤンと好い具合に空氣が濕つぽくなつて、咽喉に這入ると云ふやうな具合になつて居りますから、此點も鼻で呼吸をすれば防ぐことが出來ます、故に好い空氣を取らふと云ふにはどの點から見ても鼻から空氣を吸ふ、さうして口から直接に空氣を取らぬやうにすることを注意しなければなりませぬ、若し鼻が詰つて居れば――或は鼻茸が出來たとか、或は風を引いたとか云ふて、鼻が塞つて居ることが澤山ありますけれども、其際には早く治療して、鼻を開けて好い空氣を取らなけば好い音聲を出すに大變妨げがあります、以上は自分の身軆に於ての注意でありますが、其他普通の生活上に於て求めて清潔な空氣を吸ふやうに氣を着けなけ

ればなりませぬ、例へは室内を掃除を致した後には、一時其室内に塵埃が立つて居る、それから、若し西洋間を有つて居る家では、室内を煖める爲に石炭などを入れて火を附けた後などゝ云ふものは、其室内には石炭の塵が澤山飛んで居る、それから朝夕蒲團を出入れした其時ならば、暗い處では見えませぬが窓から這入つて來る太陽の光線に透して見ると、其光線の中にはどうも色々綿の切や木綿の切の飛んで居ることは一面であります、それを目に餘り見えないからと云つて口で呼吸をして居れば其塵が皆肺臓の中に這入つて來るので、若し鼻で呼吸をして居れば其塵は鼻の中に纒つて居ります、故に室内に於ても人が澤山に出入したり蒲團を敷ひたり或は室内を煖める時に石炭を餘計運ぶと云ふ時分には、最も注意して口で呼吸をしないやうにしなければいけませぬ、用心深い人なれば鼻と口に布でも當てゝ器械的に空氣を漉して好い空氣を吸ふやうにしたら宜からうと思ひます、是等はもう尋常の生活に於て免れざることであります、何か他の面倒な方法で防かうと云ふと、窮屈になつて所詮往けませぬから、せめて鼻で呼吸をするやうにして、口で其惡い空氣を取らぬように注意をしたら宜いだらうと思ひます。

それから戸外に出ても最も塵埃に氣を注けなければなりませぬ、日本は總ての工業が未だ進歩しない爲に、到る處に工場があつて蒸氣の煙りの煤で道路が黒くなつて居るとか云ふやうなことは、日本には未だありませぬが、若し一度英吉利の倫敦へ足を踏み込んだならば悟るでございませう、倫敦の市街は眞黒になつて居ります、モウ殆んど其全市が此蒸汽の煙で充して居ると言つても宜しい、倫敦の市街を馬車に乘つて一日歩けば顔も手足も眞黒になる、襟などは毎日替へなければなりませぬ、其位に倫敦の空

氣は穢ないのでございます、さう云ふ處では若し此音聲の衞生と云ふことに注意して、惡い空氣を吸はないやうにすると云ふ考がなければ、先程申た通りに直きに喉頭加答兒や氣管支加答兒が起つて來て、忽ちに音聲を損ふやうになります、日本も是から先工業が進んで來れば、石炭の煙などが餘計に飛ぶやうになるかも知れませぬ、又倫敦や巴里や伯林は道路の修繕が宜いが、日本は如何にも道路の修繕が惡い、道路のこんなに惡いのは世界中にない歐羅巴あたりは道路が叩土にしてあるか又は石を敷いてあるからして、車が通つても粉になつて飛ぶやうなことはない、日本の道は實に道路じやない、雨が降れば田畑の中を通るやうで天氣が好ければ河原の有樣、本當に斯ふ云ふ惡い道路は世界中にないです、風が吹けば塵埃を飛ばす、其塵埃は何であるかと云ふと砂であります、隨分小さい泥であります、此砂は倫敦あたりの石炭の煙と較べてドッチが宜いかと云ふ問題を下して見ますると、遙かに此砂の方が惡いのであります、倫敦あたりの道の黑くなつて居るのは、それは石炭の煤煙でありますが、是は左程酷い形の物ではありませぬ、極く柔らかい所の炭素の塊りでございます、東京の市街に飛んで居るのは小さい石の粉であります、又砂であります、泥であります、顯微鏡で見ますれば皆角の立つた所の石の粉でございます、此粉が鼻なら鼻、口なら口から咽喉肺などへ這入つて往くのです、若し目の中へでも這入つたならば角のある石ですから必ず落ちない、中々それは取れるものではない、咽喉へ這入つても、柔らかい物なら取れるけれども角があるから中々取れない、何時までも附いて居る、附いて居るからして遂に焮衝が起つて來て氣管支加答兒とか喉頭加答兒と云ふやうな病氣になつて來ます、工業が進歩んで居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ない爲に煤が市街を汚すと云ふ憂が少い代り、其砂の爲に音聲の元となる處の色々の身躰の部分を病氣にすると云ふ傾きがある、是は隨分世界に對して耻かしい次第でございますが、中々此東京の市街を良くすると云ふとはむづかしい問題でありますからして、是は唯吾々の希望に止めて於きまして差支ないのでございます、併ながら此都に生活して居る人は、市街が穢ないから衞生上に注意しないと云ふ譯には往かない、市街が穢なければ穢ないだけに多く注意をして害を避けるやうにしなければなりませぬ、それで先づ塵埃の立つ日には成べく口で呼吸をしないやうに、鼻で呼吸をするやうにして、又戸外では餘り物を言はないやうに注意をしなければなりませぬ、此物を言ふと云ふことの生理は餘程奇妙でございます、物を言ふ時分には鼻が開いて居る人でも決して鼻から空氣を取らすに口で取る、斯ふして私が物を言ひ居るが、平生默つて居る中は口を塞いで居るけれども、物を言ふ時に限つて口で空氣を取る、さうして呼吸と言語と一緒に出すからして、物を言へば必ずどんな鼻の利い人でも多少口から空氣が這入ります、又表を歩るく時漫りに饒舌つて居る人がありますが、あれではどうしても其喉頭の中へ塵埃のある空氣を吸ひ込むことを免れませぬ、此東京のやうな危險の市街、即ち角のある小さい石の飛んで居る都、斯う云ふ町を歩るく時には成べく言語を愼んで靜かにして通行するが必要でございます、其他風の吹いて、殊に自分の顏に向つて風の吹く日にはハンケチでも當てるとか、隨分やつて居る人もありますが、又こゝへ掛ける袋、即ちレスピラートルでも掛けて直接に鼻と口からして塵埃を吸込まないやうにするが宜しうございます。

それからもう一つ注意しなければならぬのは汽車の

旅行です、是は文明國には非常に盛であります、日本でも追々文明國の仲間入をするからして、休暇が來れば皆さんも旅行でもして、平生の働きに對して一定の保養をすると云ふことは文明國の極りでありますから、日本も段々さう云ふようになるだらうと思ひます、そこで其旅行する時分に滊車を用ゐる、其滊車の内には殆ど此音聲の衛生を妨げる品物が多いのでございます、滊車の三等あたり――極く下の「クラッス」は周圍が板で張つてありまして、腰を掛ける處も憑掛る處も、極く單一の裝置である處ならばまだ宜いです、幾らか衛生上に宜いけれども、中等上等あたり、現今の一等二等位の「クラッス」であると、下の敷物も種々の物を敷いてあつて、其中には色々藁を入れたり馬の毛などが這入つた所の蒲團がある、憑掛る處にも蒲團が附いて居る、さう云ふ風な具合に構造してある處の滊車の列車、それが進行中に起す塵埃は實に命狀すべからざるものであります、下等列車ならば割に塵埃は少い、けれども中等上等の列車に限つて非常に塵埃がある、即ち滊車と云ふものは瞬間も休まずに動いて居るからして、何れ下の床も共に動くので決して敷物の中の塵と云ふものは鎭滯しない、始終動いて居る、之れを窓から這入つて來る所の太陽の光線に透して見れば、無數の塵埃が其內部に飛んで居る、加ふるに滊車の構造が宜くても外部から塵埃が大變に這入つて來る、其外部から這入つて來る所の塵埃は第一石炭の煙が直接に這入る、又滊車の進行の爲に下の泥若くは砂、それ等が震動のために窓の中へ這入つて來ると云ふこともあります、兎に角外から這入つて來る塵埃が非常に澤山ある、私は露西亞へ一遍旅行したことがございますが、露西亞の滊車は薪を燃くのであります、石炭がないから薪を燃く、それが爲に窓は締つ

て居るけれども其間を通つて木炭の灰が火の粉と共に這入つて來る、一方から言へば誠に美事で奇麗でありますが、併ながら一方から言へば誠に不愉快です、日本の滊車は木炭は燃かないが石炭を燃く、其石炭の煙の方が大變に害があります、それで滊車の進行中には内外からして塵埃に攻められるのであります、家の中でどんなに注意しても、戸外に出てどんなに注意しても、旅行をする時に滊車の内の塵埃がさう云ふ風ですから、旅行した揚句に病氣に罹る人が非常に多い、歐羅巴では一定の病名を附けて滊車感冒と云ふ、私の先生の「フレンケル」と云ふ人の著した書物には、滊車感冒と云ふ名前を附けてある、旅行すると鼻水が出たり咳が出て來る、それが滊車感冒であります、それから私の友人の「キヨルチル」と云ふ人は、之を滊車加答兒と言つて居る、皆な其本は此塵埃を吸ひ込んで咳が出たり鼻が出たりして兎角此病氣を來たすのでございます、故に滊車旅行と云ふことは一つは保養の爲め慰めの爲にするのですけれども、交通機關が右申した樣でありますからして、動もすればさう云ふ不幸に遭遇するかも知れませぬ、それであるから滊車の中では何う云ふ注意をすれば宜いかと云ふのが一つの問題でございます、滊車の中では無論先程も申した通り、戸外を歩るく時と同じ樣に決して多辯にし言葉を餘計費して話をすることのないやうにしなければなりませぬ、兎角滊車の中では徒然の餘りに四方八方の話が出て絶間ないやうです、又一人旅行しても兎角寂しさの餘りに此方から話を仕掛て友達を拵へるやうなことを致しますが、是は無理ならぬとであるけれども、話をすれば先程も申した通りに空氣が直接に口からして咽頭の中に這入り、咽頭からして胸膈中に這入りますから、徒然の餘りに少々の談話は宜いけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れども、ノベツ幕なしに大きな聲をして始終話をすると云ふやうなことは成べく避けなければなりませぬ、況や滊車內は雜音甚いが爲め自ら知らず知らず大聲を發せねばなりませぬ是も亦た音聲を作る喉頭を害ふと甚しきものでござりますそれから又滊車の窓を開けること、隨分春先から夏に掛けて旅行する時分には、中の空氣が惡るくなるからして、頻りに窓を明けたくなる、日本では餘りありませぬが、歐羅巴では空氣の惡るくなることが八ヶ間しいからして、若し三四人も一つになれば中に炭酸瓦斯が多くなつて、人体に害があるから窓を明ける方が宜い、又中には窓を開ければ却て外から惡い空氣が這入つて來て、それが車內の炭酸瓦斯と合するから却て害があると云ふやうな說を爲す人もありますが、私の友人の「キヨルチル」と云ふ人は寧ろ窓を開けぬ方が宜いと云ふ論でございます、滊車は一般に空氣を交換する所の穴が出來て居りますから、餘り窓を開けて外の空氣を入れない方が却て健康に宜いと云ふ說であります、若し開けるならば風の吹かぬ反對の側の窓を開けて空氣を入れるやうにするが宜い、それから滊車に乘るには列車の場所を選ばなければなりませぬ、成べく滊鑵車の傍を選んで乘らなければ往けませぬ、若し滊鑵車に隔つた所の車に居れば、風が吹いて來た時には何時でも石炭を燃いた煙りが後の方の列車に吹附けるから、成べく滊鑵車に近い列車を選んで乘るのが宜しうございます、以上は即ち旅行中空氣を選む所の方法です。

それから又一番安全に此音聲を出す所の貴要部分に害のない所の場所は、世界中何ふ云ふ場所かと云ふと大陸から離れた所の小さい島が一番安全であります、此邊で言ふと伊豆の大島、彼處は人口は多いが何しろ大陸から隔つて居る、モツト近い處では江の

島でも宜しうございます、島の空氣が一番宜い、若し近い處に島がなければ即ち一方は海岸で一方は大きな森があるやうな處及び其近邊の空氣が一番宜い、森があれば人間の生活して居る處の穢ない空氣や、工場などのある穢ない空氣は皆森で漉して來る、森と云ふものは空氣を漉す所の能がある、即ち惡い空氣も漉せば好い空氣であります、それから片一方は海岸で海の空氣ですから奇麗であります、さう云ふ邊は先づ安全でございます、故に此の音聲に要する所の機關即ち道具の衛生を圖るが爲に、旅行でもして好い空氣を吸はうと思つたならば、一方は大きな森を備へ、一方は海岸と云ふやうな處を散歩でもして好い空氣を吸ふやうにするが宜しうございます、是れは空氣に對する注意で、其他音聲を出すに入用の道具に害を來すものは何々であるかと云ふと隨分澤山あります、「アルコール」飲料即ち酒類です、酒類なども健康な身體には適度に飲めば決して妨げないけれども、若し咽頭や鼻、口、喉頭等に少しでも加答兒があると云ふやうな時に餘計用ゐると、さうすると音聲に大變な害を來たすので、ございます、平生鼻の詰らない人でも、病氣のある時に「アルコール」を飲めば直きに鼻が詰つて來る、酒を飲むと聲が嗄れて來ると云ふやうな具合になつて來て、さうして段々と漫性になり、遂には本當の聲が出なくなる、是は能く注意をしなければならぬことでございます、それから煙草です、是は御婦人方には少ないことでありますが、煙草を喫むと云ふことは大變に音聲に妨がある、啻に御自分が喫まないばかりでは、ない、此日本の家は幸ひに紙障子を使つて居るから歐羅巴に於けるが如き弊害は少ないけれども、併ながら男子が大勢集つて煙草を燻らして居る部屋へ、少しでも喉頭若しくは鼻等に病氣のある人が這

入つて往つたならば、直ぐに餘計腫れて來て遂に聲を嗄らすやうになる、健康な人でもさう云ふ空氣を吸ひ居れば不健康になりますから、さう云ふ場所へは成べく避けるやうにする方が宜しうございます。

其他口中一切の病氣、即ち齒が惡いとか或は舌が惡い時には、必ず總ての衞生に注意して齒などは極く清潔に保たなければ不可ませぬ、此事は後に伊澤さんが御演説になりませうが、隨分齒の病氣の爲に、殊に虫齒などは其中に種々樣々の黴菌があつて、其黴菌が溜つて居れば食物を阻嚼する度に黴菌が喉頭の中へ這入つて行く、それから段々焮衝を起して遂に喉頭加答兒などに罹つて、折角有つた美聲を失ふと云ふやうな不幸に遭遇した例が澤山あります、さう云ふ譯ですから惡い齒を有つて居る人は、矢張り其齒を早く直くすると云ふことに注意しなければなりませぬ、以上申したことは身躰の內部の注意で、此他に外から惡くすると云ふことを申上ませう。

外部からの關係はどう云ふものかと申ますと、先づ第一に此音聲を出すには先程も申した通りに胸膈の作用が必要でございます、即ちフーと吹き出す所の胸膈の力が十分でなければなりませぬ、それでありますから若し帶などを餘り堅く締めて居る時には、十分に空氣を吸込んで胸膈の中に蓄へることが出來ませぬ、歐羅巴の御婦人方は「コルセット」を着けて居るが、此「コルセット」は身躰の外觀を好くする爲に締るのですが、近頃歐羅巴の婦人衞生が盛になつた爲に、之を廢して成べく寛るくしやうと云ふ傾きになつて來ました、詰り身躰を奇麗にするよりも衞生上に注意をするやうになつて來ました、況して藝者などのやうに美音を出して歌を唄ふと云ふ人が「コルセット」や帶を甚く締めて居つた日には、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

容易く好い聲が出るものではありませぬ、まだ日本にはそんなに大きな聲を出して歌ふ者は少ないけれども、若し歐羅巴の如く大きな聲を出して本當に音樂的の好い聲を出さうと云ふ場合には、今の御婦人方のやつて居らつしやるやうな服裝では、餘程難儀であらうと思ひます、モット十分に胸膈が廣がつて良い空氣を充分に蓄へるやうにしなければ、迚も好い聲を出すことは出來ませぬ、それから先達も宮本君が話されたやうでございますが、子供達に堅く帶を締めさせて置いてさうして三味線の稽古に通はせると云ふのは間違つて居る、即ち好い聲を拵へてさうして音樂の思想を養成させやうと云ふには、矢張り胸を十分に廣くすることに注意をしなければなりませぬ、それから又歐羅巴では此襟を大變に緊くして置くが爲に、今まで大變に好く音が出て居つた藝者なども、段々聲が出なくなつたと云ふ例も書物に書いてあります、けれども是は日本の御婦人には左程痛痒を感じない、日本の御婦人は堅い襟などを着けないからして餘り關係のないことですが、マアさう云ふ例もございます、兎に角音聲を奇麗にしやうと云ふには、此咽喉からして胸膈に至るまでの間に、酷い拘束を加へて空氣の運動を妨げると云ふことのないやうにしなければなりませぬ、其他に何う云ふことを注意するかと云ふと、平生に注意しなければならぬことを二つ言つて置きます、即ち一つは日本の御婦人に勸めるのは甚だ難儀でございますが、歐羅巴の婦人は躰力を養成しつゝ音聲の美を計ります日本も追々さう云ふことにして見たい思ひます而してそれは運動のことでございます、運動も市街を歩いたり穢ない空氣の中を車で驅つたりしろと云ふことは勸めない、成べく空氣の清い塵埃のない處で以て、胸膈を強くする爲にやると云ふ側の運動を勸め

たいので、其一番宜いのは何かと云ふと、歐羅巴の書物にも皆勸めてあるが「ボート」遊び即ち舟を漕ぐことでございます、舟を漕ぐのは此音聲を出すに必要なる部分を十分に强める所の能があります、加之ならず此「ボート」と云ふものは水の上の働きでありますから、其時分には如何に酷く風が吹いても塵埃が立たないから、口で呼吸をして決して恐れることはない、其邊の空氣は全軆に清淨であるから、清潔の空氣を充分に吸ふことが出來ます、と云つて大學の生徒などが「ボートレース」をやるやうな具合に、ウンと凝り固まらないでも宜いです、歐羅巴の婦人が一家の姉妹若くは兩親と共に、「ボート」を雇ふて湖に泛ぶと云ふやうなことは、實に奇麗な遊びと思ふのでございます夏になつたならば隨分泳ぎなどをしても宜しい、泳をするのも即ち胸膈を强める運動でございます、空氣が大層好いから泳をするのも一つの聲音を好くする側の運動かと存じます、それからモウ一つは含嗽です、冷たい水で毎日含嗽をすると云ふことであります、其含嗽も唯口の中でグス〳〵とやつたばかりではいけない、成べく上を向いて長く掛つて奥の方まで冷たい水をやつて含嗽をするのが必要でございます、是は即ち咽頭あたりに附いて居る所の不潔な物を除き去ると云ふ目的ばかりではない、ガラ〳〵と云ふ爲に筋肉が運動して、力をそれに與へる働きのある方法で、それと同時に奇麗にすると云ふ働きがありますからして、此冷水含嗽と云ふことを毎日勤めると云ふことは、隨分役に立つことでございます。

以上申したことの外にまだ一二ありますが、餘り長くなりますから省きますが、以上申した丈でも毎日注意をすれば、幾らか感冒に罹ることを防ぐ働きがあるのでございます、若し音聲を以て職業とする即

ち奇麗な音を出して人に感動を與へ人を歡ばせると云ふ美術的の音聲を出さうと云ふには、則ち口も鼻も胸腸も皆健全であつてから始めて美い音があるのでございます、故にそれだけの場所が皆揃ふて居るか居ないかと云ふことを、當局の人に調べて貰ふと云ふやうなことは歐羅巴では澤山あります、一躰歐羅巴では藝者と云ふ者はそんなに位置の卑しいものではないから、隨分年頃の婦人は音樂學校へ往つて藝者なり、或は役者になることを學ぶ者があります、所が私が專門醫であるから言ふけれども、斯う云ふ考を持つて居ない者が、兎に角自分は音樂學校へ往つて唱歌を歌ふことを習つて、さうして藝者にならうと云ふ考を起すけれども、其人は何年も何年も掛つて學校へ往つて稽古をしてもどうも本當の聲が出ない、數年若くは數十年徒らに時日を費した其揚句の果は物に成らない、仕方がないから喉頭病學者の處へ往つて見て貰ふと、咽頭を癒さなければ駄目だと云ふことになつて、始めて自分が悟ると云ふことは澤山あるのでございます、若し皆さんが樂みの爲に音樂を習ふならば兎に角ですが、若し音聲を使つて自分の職業とするには、何うしても音聲の發達を圖らなければなりませぬ、それから音曲を習はうと云ふには必ず專門家に就て豫め鼻咽喉若くは胸腸等に異狀があるやなきやを調べて貰つて、此人は望が有るとなつてから後に始めて學校に這入ると云ふやうにするが宜しうございます、それからまだ其他音樂と云ふものは、通常の素人でも非常に胸腸を強める效能を有して居りますからして、若し肺の弱い人などは大きな聲を出して唱歌を歌ふと云ふことを力めれば、不幸にして僅かばかりあつた所の黴菌等は、音聲を使つて居る中に外に出して仕舞つてから

に、幸ひに元からあつた病氣が癒ると云ふ傾きが來るかも知れませぬ、輙ち音樂と云ふものは胸膈の病氣を防ぎ又好くする所の働きがございますから、素人と雖も音聲を愛する人には、特に音聲を大きく出す所の音樂を御勸めする次第でございます、以上申述へた丈で今日の演說を了ります。



寄書

頃日竹外子より『入の戸へ往く美人の肺病を診つるときによめる』と前書して左の一章を送くられたり、竹外子とは竹中醫學士の又の名である、誠によく肺病の狀態をうつしたるものと云ふべし。

梅か櫻か櫻か梅か、なさけもあまる此人の、床にふし居の袖しぐれ、萬あまたの人々に、すぐれし花のかんばせも、にくき病の鬼神に、うらかなしくもなやまされ、いかがはせむとくすしをば、まねきてはかる術々も、はづれ／＼て捨小舟、波のまに／＼たゞよへる、さまのかなしさうちみれば、花のちりたる形なる、人々まもれ養生の、道に二はなきぞかし。

尙本誌毎號に連載せる竹中醫學士の寄送にかゝる肺病者養生法に就き其續稿を左に揭げん

肺病者養生法（其六）

醫學士　竹中成憲君

第三　食物新鮮なる事

海岸所在の地は鮮魚あり、山間の地は善良なる野菜に乏しからず、加ふるに入浴及び散歩の爲め食欲の増進するあり、身體營養の亢盛するや明なり、

温泉の効能は要するに右の如し、故に普通人の迷信するが如く入浴其者の卓効にあらず、貧しき患者冬の衣類を質入して之に赴くが如きは誠に愚なり、大家の認めたる効能書も浮世の義理と人情に絡されて書きたる者多しと知るべし」此理由を善く解釋して己れの經濟を打算し、行き得るものは無論行かざるに勝る、殊に平生官吏、醫師、投機家、商家主人の如き腦力を以て世を渡るものを然りとす、我國に於ては商家主人の此風なきは予の常に愁ふる所なり、西洋人は商家たりとも此事あるは勿論、平生の勤務亦我國商家の如く夙に起きよわにゐぬるの事なく、官吏の如く午前何時商店開扉午後何時閉鎖と定め、事務所と居宅を異にし、時間外に在ては家族團欒の樂を爲しつゝあり、横濱、神戸、函館等皆然らざるはなし、且日曜日の休業の事は一般に皆然り、故を以て健康良く、腦力鋭敏能く大業を成就す、醫書に曰く「健康なる精神は健康なる身躰に宿る」又曰く「健康は幸福の母」なりと、孝經に曰はずや「身躰髮膚之を父母に禀く敢て毀傷せざるは孝の始めなり」實に健康を守らざれば恩を恩人に報ゆる事能はず、身躰強實にあらざれば兵となりて御國に報ゆる事も叶はじ、文明文明と口には稱すれどもイザと云はゞ二十七八年の役の如し、世界は舌の世にあらず何年の後までも腕の世たるべし、

入浴者注意・

左に温泉に行く人々の入浴注意を述べん

入浴者中往々入浴回數多ければ從て病治の迅速なる者と妄信し、一日中五六回より七八回迄に浴數を增す者あり、是甚だ誤れるものにして、假令は醫藥を服するとせんか、病症又は躰質に因り藥の分量を加減し、或ひは分服の回數を異にす、是れ身質軟弱の者に強健の者と同量の藥を與ふれば、反て害

藥となり爲めに身體を害するを以てなり、温泉も亦是れと同じく體質病症に依り大に加減せざるべからず、彼の食欲進まず、身體に疲勞を覺へ或は入浴を厭忌するの念を生じ、或は腹のこわりて不快を感ずる等皆入浴過度の結果なり、素と温泉は適度に入浴すれば非常に食慾を増加し、但氣分宜く身爽快を覺ゆるも、入浴過度の爲め此の不幸の結果を來す、入浴者たる者深く注意すべきとなり、而して入浴中は食慾増加の爲め種々の食品を望むも、滋養品の外は可成注意して用ゆべからず、且つ消化の惡き者を除き消化し易き者を撰び食すべし、入浴後直に飲食すべからず、食後も直に入浴するは惡し、共に三十分以上を經るを宜しとす、而して入浴時期も可成時間を定め置き毎日誤らず同時期に入浴するを宜しとす、又入浴時期外には戸外空氣の清亮なる場所に運動散歩を怠るべからず、

眩暈頭痛等する時は入浴を休み癒ゆるを待て後入るべし、若し入浴中眩暈頭痛の起るときは早く上るべし、且つ入浴日數は通常三週を以て一期とす、然れども病症に因りては之を二倍し或は三倍するとあるべし、

肺病まだ發せざる前は海水浴を良とし、病既に發せし後は醫師の許なくして行くべからず、

海水浴は甚しき神經質患者には良からず、稍多血にして平素表面上强壯の如くに見へ實際醫學上病ある者(例之は瘰癧(るいれき))に最も適す、

東京地方の分

▲日光　(海上六百二十五米突)(氣壓七百〇四耗)夏は大に良し殊に同地の森中は最良の地なり、

▲熱海　夏も惡しきには非されども冬行くに最も良し、

▲網代　は却て熱海よりもよろし此地方にては椿一月に咲く、

▲草津　(氣壓六百六十三耗)空氣清潔にして良し、散歩するにも良く且硫黄蒸氣ありて肺患者によろし夏行くに適す、

▲上總鹿野山　(海上三百五十米突)散歩するには最適當の地なり、

▲伊香保　(海上七百九十米突)(氣壓六百九十三耗)は冬期風稍荒き

事多き故極て良地とはいふべからずと雖も夏は良し、
▲函根　(海上七百米突)雨多く散歩する所少し、
▲木賀宮の下　(氣壓七百二十粍)は餘り低くして且夏は熱し、
▲塔の澤　は夏及び秋の季節は最良なり、
▲蘆の湯　(氣壓六百八十六粍)は硫黃泉にして草津と異狀なし、
▲神戸　の空氣甚だ良し商業に從事する人杯は此地を最も宜ろしとす、
▲須磨　至極良し先聲鶴崎學士の肺病專門病院あり、
▲高知　は冬暖なり、
▲磯部　は冷泉にして食鹽泉なり、
▲有馬　は温泉にして食鹽泉なり、

尙ほ東京地方漫遊を望む人は、東京讀賣新聞社の讀賣節用載する所の遊賞案内の類を一讀せらるべし、

伊豆國熱海温泉噏氣館の湯を結晶せしめたる者あり、多少の効あるべし、之を温湯に溶解して内服し又入浴するも可なり、五斗分金五十錢製造者は伊豆國賀茂郡熱海共友社

要するに東京近傍にては、冬は熱海へ行き、夏は日光又は伊香保へ行くを良とす、

(温泉に關する意見は、恩師ベルツ——博士の實驗及論說に依る、
温泉水は「バクテリヤ」を殺すの効力あり(友人遠山椿吉君試驗)

(未完)



皮膚病の話　(第四)

在大學　T.　S.

本誌第百貳拾八號本欄三十二頁末項夏目斑とせしは夏日斑の誤植二十四頁二段目右より六行海浴の說中黴菌を含むことありとあるは含むことなしの誤植に付茲に正誤す

肝色斑

肝色斑と云ふは世間にて通常云ふしみの事にて其形

大小色々ありて際立て見ゆる者もあれば亦ぼんやりと薄く出來るものもあり原因も色々ありて色々の藥等を使用せし後に生じ亦帶「コルセット」等を強く緊めし後に生じ或は亦妊娠中の人子宮病のある人に生じ又結核患者胃癌患者の如き甚しく疲勞せる人に生ず色も前二者と大差なし

療法も前の者と大差なし

之れにてしみの話は終りたれば之れより汗腺と皮脂腺との病に就て御話すべし

偖て汗腺と皮脂腺とは前々號皮膚の生理及解剖の條下にも御話致せし如く汗腺と云ふは汗を造り之を皮膚の外に排泄せる腺皮脂腺と云ふは脂を造りて之を皮膚の表面に注ぎ出す腺也、此二腺が病氣に罹れば其造る汗なり脂なりが或は多くなり或は少くなり、甚しき場合には全く之等を製造することを中止することもあり、或は又之等の汗なり脂なりが平生と其性質を異にし或は色々の臭氣を帶び或は種々の色を帶びることも在り、今先づ汗腺の病より申さば

多汗症

昨今の如き夏の熱き日に汗をかくとか或は冬の日にても甚しく勞働せし後に強く發汗するは之れ生理的のことにて別に汗腺が病氣に罹かりたるには非らず又熱病其他の病の時に強く發汗するは之れは內科の病氣の結果として起る者にして皮膚病にて述ぶべき限りに非らず、爰に云ふ多汗症とは只人躰の一部に在る汗腺が病に罹かりて其爲めに此部分のみが特別に強く發汗するを云ふ也

多汗症も所々によりて少しつゝ其徴候に變化あれば之等を別々に申さんに

第一足の多汗症と云ふは足蹠より絕へず澤山の汗を出し爲めに下駄は眞黑となり足袋を穿けば足袋に浸出して心地の惡しきこと云はん方なく靴を用ゆる人

等にては浸出したる汗が分解して甚しき臭氣を發し足の皮も亦之れが爲めに刺戟せられて赤くなり糜爛又は裂創を生ずることあり、

第二腋窩多汗症は殊に神經質の人に多し腋窩は本來汗腺の多き所故多汗症の時は汗の出ること一層劇しく出たる汗は分解して耐へ難き臭氣を發すわきがと云ふは即ち之也

わきがの臭氣の堪へ難きは諸姉の既に知らるゝ處にして之れ有る人は夏の日等は人中にも出ること難く誠に氣毒なる者なれば一日も早く適當の治療を施すこと肝要也

第三恥部の多汗症もなか〱多き病にて此爲めに色く々の濕疹等を起すものなれば之も治療を怠るべからず、

第四手掌の多汗症も亦貧血の人や神經質の人に多く針仕事をなす時に衣服其他に汗か付き誠に迷惑する者也西洋にては此病ある人は他人と握手するとき厭はるゝ由さもあるべきこと也何にせよ之も亦至急治療を要する者也

扨て治療は足の多汗症なれば五％の「クーロム」酸溶液を塗り置けばよし、若し甚しければ「ヘベラ」氏の軟膏を用ふるもよし、用法は此膏藥を布に厚く延ばし置き之を幾片にも切りて足の裏に貼付し此上より繃帶を施し置くべし、一兩日を經て後膏藥を除去し足を洗ひ已に裂創等が治し居らば此上より亞鉛華粉を散布し置くべし、其他亦「ブランダウ」氏の藥液なる者あり近年の發明にかゝり其功著しき由

わきがには二％の「クローム」酸溶液最も功あり

手掌の多汗症には「クローム」酸は其色赤き故用ひ難し其代りに「ナフトール」「グリセリン」「アルコール」の合劑を造り之を日々二度つゝ塗れば可也、

兎に角以上の諸症は充分の治療を施せば決して治し

難き者に非らざれば决して治療を怠り給ふな、

發汗減少症

發汗減少と云ふは汗の出が少くなるか或は全く失せる病にて癩病の人や糖尿病の人、神經系の病ある人或は種々の皮膚病患者に就て屢々見るところ也、以上の外青色の汗を出す病、血様なる汗を出す病、尿様の汗を出す病等もあれど先づ稀有のことなり、皮脂腺の病も亦汗腺の者と同じく色々あれど其中最も多きは

脂漏症

なり、脂漏症と云ふは皮脂の分泌増加せる病にて脂肪様の皮脂が皮膚の表面に澤山出てゝ爲めに皮膚は光澤を帯びてか〳〵と光るなり、又此出てたる皮脂に皮膚上皮の角質細胞の剝離せる者を混じて丁度糠の如き者となりて皮膚の表面に付着することあり、之れを粃糠狀脂漏症と云ひ顔、頭等に多く來る者なり、彼の顔に出來るはたけと云ふは即此事なり、又頭に出來る時は頭はふけ一ぱいとなり漸々毛髪脱離し遂に禿頭となることあり、斯の如きは婦人方に屢々見るところにして瘙痒甚しく頭は充血し強く之を掻けば膿を持ち毛は膿にて塊まり何とも始末の付かぬ有様となることあり、

脂漏症は又腋、耻部等にも出來色々の煩はしき病の元因となること少からず、

脂漏症は色々の傳染病の後に起り、或は梅毒、貧血等の人慢性の消化器病を病む人、便秘の時、子宮等の病ある人に起ること多し、

治療は先づ第一に其原因となる病例えば子宮の病、便秘等を治し次に頭の脂漏症なれば加里石鹼或は加里石鹼精にて洗ひて後梳ればふけは容易く剝離すべし、又若し痂等有れば「ヲレーフ」油を塗りて後一晩を經て梳れば痂もふけと共に剝離すべし爰

に於て十%の硫黄軟膏を毛の中に擦込み斯くの如くすること五六日間にして頭を洗ふべし、其他又色々の藥あれども餘り複雜するの恐れあれば玆には省きつ、詳くは適當の醫師に就て問合せ給ふべし、

減脂症

此病は糖尿病惡液症等の爲めに起り亦老人の皮膚の萎縮せる人に起り亦石鹼とか曹達の如き藥液にて長時間皮膚を洗ひし爲めに起り亦温度の急變する爲めにも起り亦色々の皮膚病の後に起る病にして皮脂の分泌大に減少し爲めに皮膚は乾燥して裂創等を作るに至ることあり

治療は「ワセリン」、「ラノリン」等の如きを塗り或は椰子の油一〇、〇薔薇油の合劑を塗るも可也、或は單に硼酸軟膏の如きを塗り置くも可也

魚の目の話

魚の目は何人も知る處の皮膚の病にて此は皮膚の尤も壓を受くる部分即ち足の趾や足の裏などに生じ稀には手の指にも生ずることあり此は皮膚の表皮が肥大して其下部なる眞皮を壓するが故に（本會雜誌第百廿六號皮膚解剖及生理の條を見よ）頗る疼痛を感ずるものなり

魚の目は壓に由りて生ずるものなれば其發生を防ぐには靴下駄等を購求するに當り可成足に壓を與へざるものを撰ぶにあり西洋等にて家事向の雜用には餘り身躰を使役せざる令孃方に比較的魚の目の多きは外見的の虛飾に惑ひて窮屈なる靴を穿つが爲なり

治療はザルチル酸石鹼硬膏にても貼付し置かば數日後には魚の目は自然に剝離すべし是尤も痛なき良法なり其他又外科的に之を切除するも隨意なり

皮角の話

皮角とは珍らしき病なれど同じく皮膚表皮の肥厚せる病なれば序ながら玆に述べ置く事とせり左の圖は

皮角患者の有名なる圖なるが人類にて角の生ずるは只に般若のみに非ざるなり此圖にては額に大なる角

The Journal of comparative Medicine and surgery より轉載



皮角病

一本と頬にも小さき物が一本生じ居れど此の生ずるは單に顔面のみに非ずして趾部にも亦稀には他の躰の部分にも生ずる事あり形は圓錐狀の物もあれば圓柱狀の物もあり屈曲せるもの眞直なるものあり色も一定せざれど多くは褐色なり

治療は別に困難ならず外科的に充分根本より剜り取れば再其部分に生ずる事なし

（未完）



看護法

普通看護法の續き（其二）

T. S.

前號には看護をなさる方の心得方に付て御話を致しましたが此度は病室の事を御話致します

病室の事

若し家族の中に病人が有りましたら如何いふ部屋に寢かして宜ろしきやと云ふに病人は申す迄もなく健康の人よりも身躰が弱つて居りますから家の中で最

も善き部屋に寢かせなければいけません、善い部屋と申しましても決して木口がよいとか壁が美しいとか或は又部屋の造りが風雅であるとかと申すのでは有りません、衞生上善き部屋でなければならぬのであります、偖て衞生上善き部屋と申すのは第一部屋の中が清潔で、明るくて、空氣の流通がよくて、病人は勿論看護をなさる方が御在でになつても究屈でなくて、夏は涼しく、冬は暖くして、其上尚ほ閑靜でなければ不可ません

是丈の條件を充しますには如何いふ具合に致せばよろしいかと申しまするに

第一部屋を清潔にいたしますには充分掃除を致すより他はないので御座いますか何程掃除いたしましても久しく閉め切つて在つた部屋とか日當りの悪い部屋とか或は外から絶へず塵埃の入込部屋とか塵埃の出づる敷物が敷き詰めて在る部屋などは到底急に清潔にする理由にはまいりません、それでありますから最も善いのは適當に建築しました西洋間でありまして牀は滑らかな木で敷き詰め壁や天井も石か或は壁の上をペンキで塗つたのでありますと何時でも部屋内を掃除する事が出來て誠に清潔にいたしやすいので有りますが、我が日本では未だ如此部屋は少ない事故是非共在來の日本間で間に合せなければなりませんから病室には成る丈床の間とか棚とかの多くない部屋で掛物とか置き物とか云ふ看病に目前必要の無き道具は室外に運び病人を入れる前に充分室内を掃除して出來得べくんば柱は勿論壁天井等も拭いたもので御座います、

序でありますから病室の掃除の事を申し上げて置きますが輕い病人で起居が自由でありますれば病人を暫時他の部屋に移らして平常の如く室内の掃除を致して宜しう御座いますが重症の患者にては餘程注意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を致さなければなりません、患者を臥かして置いて障子を拂いたり箒を使ひなど致しまするのは只に患者に不快を起さしめる計りでなく呼吸器病等の患者には非常の害となるものであります、されば斯る塲合には箒ハタキ等を使ふ事を止めて粗い塵埃は指にて拾ひ集め其他は緊く絞りたる雑巾にて拂き取るより外は御座いません、

又病人の居た部屋の掃除の事を申しますが凡て患者の居た部屋は充分掃除を致して風を通さなければなりません、殊に傳染病等の患者には充分消毒を致さなければなりません、是には先づ湯水又は石炭酸水の如きものにて疊其他に附着て居る不潔物を拭ひ取り隅々は勿論壁疊等には霧吹き器械にて石炭酸水又はホルマリン溶液を吹きかけて後充分日光と風とを通すので御座います、勿論細かい事は其都度主任の醫師に御問ひ合はせになる事が肝要で御座います、

第二に室の明い事は病人の治りかたに大に關係を持て居ります、健康な人でも晴天の日は心地よく鬱た日はなんとなく勝れない者でありますから、病人の部屋は出來る丈け明るく無ければなりません、併し明るいのと日の強く當るのとは別物でありますから病人の頭等に強く光線が當る様なれば病床を轉じますとか或は窓掛で之を防がなければなりません、

序でありますから申上げて置きますが病室の壁の色は灰色か薄黄色がよろしふ御座います、純白の壁は清潔には此上なく御座いますが日光が當りますとぎら〱してまぼしく御座いますから病室には適當いたしません、

病室の燈火はランプで宜ろしふ御座いますが可成良き構造のランプと上等の石油を用ひて油烟の立たぬ様に致さなければなりません、又燈火の強さは看護をなさる方が躰温を御計りになる時に寒暖計の目盛

りか見ゆる位が適當であります、餘り强き燈火は患者に苦痛を與へる者で御座います、ランプには乳色硝子の傘か或は紙の傘を掛けて置く事が必要で御座います、

前述の如く日光は患者に必要でありまするが之れにも例外がありまして眼病患者とか神經系の病人や狂犬病の人などには日光ば反て害となる者であります

第三空氣の流通が善き事は部屋の室の明るき事と共に病人に必要な事で御座いますが日本の家は諸處に隙き間が有りまして其上日本の壁は良く空氣を通しますから之れ丈けでも多少は空氣の流通を助けますが病室には未だ之れ丈けでは不充分でありますから朝晩空氣の淸潔な時に障子を開けまして部屋の空氣を入換なければなりません併し斯く申すものゝ冬の朝の寒き空氣を病室に充して良と云ふのでは有りません冬の日には室内を温め置き成るべく病人に風の當らぬ樣障子の隅を少しく開き入りたる空氣の直に温まる樣にすれば宜しく病人の枕下に屏風を立て風の直接に當らぬ樣にすれば一層宜しう御座います、

空氣の流通が惡るければ室内に炭酸充滿に成つて中毒する事は諸姉よく御存知で御座いませう炭酸の量を定める事は少しく六ヶ敷ことで御座いますけれども炭酸の增加すると共に室内の空氣は一種不快の臭氣を帶びて參りまするから若し此臭氣を感じました時には何時にても直に障子を開けて空氣を入れ換へなければなりません殊に多人數病室に集まる時には決して此事をお忘れなさらないやうに願ひます、

第四病室の廣さは餘り狹ければ獨り究屈なる斗りでなく空氣が容易く腐敗しまして病人に害を與へます又餘り廣過ぎますと冬の日等は部屋を温めますのに大層骨が折れます先づ大凡そ病人一人に看護をなさ

る方が一人付添ふて御出で被成事として六疊から八疊位の部屋が適當で御座います天井は餘り高いのはいけません一間二三尺位の處が最も適當であります、尤も西洋館は例外で御座います障子なり硝子戸なり日光の入込む面積は六疊の間で少くとも一坪即ち一間四方以上なければいけません八疊の間なれば倘ほ廣くなければなりません之れは衛生學の方から割出したので御座いますが餘り混雜いたしますから別の處で述べる事にいたします部屋の向は南向が一番よろしう御座います何故と云ふに南向は冬は日光がよく當り從て温かく夏は良く風が通るからで御座います南向の窓の他に北にも窓がありますれば風通りがよくて夏の病室には至極適當で御座います西向の病室は最も惡るう御座いますから成るべく避けたき者で御座います

第五南向の部屋の暖い事は前述の通りで御座いますが冬日はなかなか日光のみにては病室の温度を適當の度に保つ事は出來ません、是非火鉢とか暖爐とかを用ひて部屋を温めなければなりません、西洋にては色々と良い装置が出來て居りますが皆日本室に用ゆる事が出來ません、まづ在來の火鉢が最も適當と存じます但し之に用ゆる炭は充分吟味して烟の出でないのでなければいけません又はねる炭はいけません、はねる度に病人に刺戟を與へます此の頃我國に流行します石油ランプも適當でありますが火を消す時には室外に持出してお消しなさらないと病室に油烟を充す恐れが御座います、暖爐は宜しく御座いません、石炭の有る間は熱つ過ぎ石炭が燃へ盡せば直に冷却して其上石炭を投込む時灰を取出す時に病室を塵埃だらけにいたします、併し石油暖爐にせよ火鉢にせよとても充分の温度は得られませんから矢張り湯婆(ゆたんぽ)を患者の床の中に入れて置く

のが必要で御座います偖て病室の温度は何程が適當であるかと申すに攝氏の十七度から廿度即ち華氏の六十三度から六十八度が最も適當で御座います病室には日の當らぬ處に寒暖計を掛け置きて始終之れに依て温度を加減しなければなりません、

夏の日に病室を涼しく致しまするには風通りを良くするのが第一で御座いまするが若し尚ほ涼しくするには氷を鉢に盛りて室中に置くもよろしく又近來流行の電氣仕掛の風車を備付けるのも宜しう御座います、

第六騷々しきのが病人に有害なる事は申す迄もありません從つて病室は最も閑靜なる部屋でなければなりません茶の間臺所等に近き部屋は可成避けたい者で有ります便所に近き部屋もよろしく御座いません其他倘一家に病人があれば可成靜寂にいたさなければなりません

病人には靜な事が第一で御座います靜でありさへすれば患者は容易に眠ります眠る間は凡て病苦を忘れて居ります日本では悪い習慣が御座いまして病人を見舞に行く人があると附添ふ人が聲をかけて切角安く々と眠つて居る病人を醒覺して誰々が來たと告ぐる事で御座います之は誠に悪い習慣で御座いますから是非禁止したいもので御座います其れから又見舞に來た人が病人の側で聲高々と話を致します甚しきに至つては病人をそち除けにして家族の人と世間話を初める人がありますが是等は實に病人に對して同情の薄い話では御座いませんか

有名のナイチンゲール女史が申した言葉が御座います「病人は眠ればねる程能く眠るもので世間よくねる病人は夜も亦容易く眠に就く」と申されましたが經驗上實に名言と悟りました故に病人は可成靜にして眠らせるのが一番で御座います

是れで先づ病室の事は大概御話いたしましたから次に病牀の事を申上けます

病牀の事

病牀此は寢臺が最も適當で御座いますが之も日本では必ず備付て有ると云ふ理にまいりませんから通常の敷蒲團の可成軟き者を用ゆればよろしく御座いますます若し藁蒲團を整へる事が出來ますれば一層よろしふ御座ります此藁蒲團の上に一枚の敷蒲團を敷けば充分寢臺の代用をいたします

偖上述の如く蒲團が出來ましたれば此上に上敷布を敷くので有ります上敷布は即ち世間で申しまするシーズで有りますシーズは色々の布で製へますが金布とかキヤラコで造るが最も便利でありますシーズの大さは蒲團よりも少く大きくいたして其端を蒲團の下に折込むので御座います若し病氣の種類により蒲團等を汚す樣な憂が有りますれば油紙なり護謨布なりをシーズの下に敷くので御座います

シーズは度々取換て洗濯を致さなければいけません

掛蒲團は通常の夜具なりかいまきなりで宜しふ御座りますが可成柔くて輕いのでなければいけません

若し毛布を御用に成るなればシーズと同樣な布片を造り之で毛布を包まなければいけません毛布が直接に身躰に觸るのは誠に不愉快な者で御座います、枕は箱枕は病人には不適當であります法師枕に限ります中に入れる品物は良く乾かした蕎麥殼がよろしふ御座います、西洋では馬の毛を詰たり或は枯草等を詰めまするが代價程の功用はありません護謨枕もよろしふ御座ります但し餘り空氣を過さぬ樣注意せねばなりません其他亦水枕と云ふものが御座います熱病の人等には至つて適當で御座います

枕も亦清潔なる白布に包みて時々之を取換なければなりません感覺鋭敏の患者には汚れたる枕は非常に

不快を與へます
病人に着せる衣服は通常の單衣でよろしふ御座ります色は成る丈け白ぱくて汚れ目の早く見ゆるのが宜しう御座います
衣服は度々取換なければいけません病人は得て身躰の汚れ易い者でありますから衣服の取換は決して怠つてはなりません衣服を交換ると同時に濡れたる手拭にて身躰中を拭く事が大切で御座います身躰の清潔なると否とは病氣の快復に大層關係する者で御座います着物やシーズを取り替へますにも餘程注意を致さなければいけません、勿論病人が單獨で起居が出來ますなれば別に面倒は御座いませんが左もなけば一寸口傳が要ります先づ着物を着替へますのには右の手なり左の手なり都合のよい方の手を病人の背中の下に差し入れまして靜に病人を起すので御座います、それから病人の着物を扱がせ他の手を病人の股の下に深く入れ病人には其兩手で此方の襟首を摑ませ頂度赤子に行水を使はせる樣にして病人を少しく寢床から擡上るのであります、一人が斯うして持ち上げて居ります間に他の一人が急いで古い着衣を取り去り新しき着物を臥床の上に擴けるのであります、衣物が擴がりましたらば靜に病人を其上に卸して臥させて後手を通し前を合せるのであります、シーズを取り替へるのも同じ樣にすれば宜しう御座ります然し重病人で中々身躰を持ち上げる事の出來ない時には先づ病人を蒲團の一方に動かし次に古いシーズを卷て病人の背中の處に押し附け新しいシーズを取り其半分を縦に卷いて半分を蒲團の上に敷きて後病人を此上に移し古きシーズを取り去り新しきシーズの卷いてある部分を擴げるのであります此際シーズの少の皺の出來ぬやう充分引き伸ばす事を忘れてはなりません

衣物及シーズを取り替へる時に注意を致さねばならぬは部屋の中の温度であります衣物を取り替へるに先づ寒暖計を見て部屋の温度が慥に攝氏の十七度から二十度の間に在るかを慥めて次に障子の隙間が無いやうによく閉めて後取り替へにかゝるのであります

次に臥床の位置でありますが臥床は餘り壁に密接て敷いては不可です、少くとも二尺位は壁から離して置きませんと看護をするのに大層不便で御座います

序で御座いますから申上げて置きますが病室の中で看護をなさる方の坐つておいでになる位置は可成寢たまゝ患者から見える處でなければいけません又日光の遮壁となつてはいけません又餘り患者に接近して坐るのも宜しく御座いません只に患者に欝屈ばかりでなく傳染病等にては頗る危險で御座います

中外彙報

◉蚊を全滅する法

蚊は人類に對して啻に厄介物たるのみならず實に有害物たる事は輓近の學説によりて明なる次第なるが伊國の醫師フヱルミは此等の害を除かんが爲め蚊を全滅する法を案出したり氏は此方法を案出する前に蚊の性質を研究して其卵は溝渠汚水濁水又は貯水の中に在りてのみ發育するものなることを知り次て石油は其卵を殺すに足る事を發見し氏の居住するサッサリ市に於て蚊の發育すべき水中に二週間毎に石油を注ぎたるに夏季に及びて一匹の蚊をも見出さゞりしと云ふ氏の計算に據れば人口五万を有する市街に於て毎年四百乃至六百圓の石油を用ふれば蚊を全滅せしめ得べしとなり

◉赤痢猖獗の傾向

先頃來氣候の不順に乘じ赤痢病患者續發し益々蔓延の傾向を呈せる由なるが本年初發以來百人以上の同患者發生の地方は左の如し

	患者	死亡
東京	二百五十二人	三十八人
大阪	百十一人	二十四人
神奈川	九百九十七人	九十三人
新潟	百七十四人	二十六人
群馬	百四十四人	十九人
千葉	二百三十人	三十八人
愛知	三百六十九人	四十七人
靜岡	三百七十八人	六十九人
山梨	二百七十九人	四十人
岐阜	百二十一人	十八人
長野	百〇四人	十三人
香川	百十一人	二十七人
熊本	二百〇一人	二十二人
宮崎	百二十二人	十九人
鹿兒島	二百十八人	三十六人

神奈川縣の赤痢猖獗　去る十二十三兩日に發生し患者の屆出數は七十九人にて初發以來千三百二十二人に達し現在患者は六百三十五人なりと

◉腸窒扶斯診斷液の發明

傳染病研究所部長醫學士淺川範彦氏は先般北里醫學博士の指導の下に腸窒扶斯診斷液なるものを發見し頗る醫師社會の好評を博しつゝある由元來腸窒扶斯病は他に類似したる熱性病多き爲め何程名醫にても唯其容躰のみによりては一見診定を下す能はざるものなるが此の診斷液は有名なる「ウイダール」氏診斷法を汎用せんが爲め氏が本務の餘暇案出せられたるものにして一種特異の性質を有し此液に腸窒扶斯患者の血液一滴を混すれば忽ちにして變化を呈するが故に何人にても其變化によりて腸窒扶斯病か腸窒扶斯病にあらざるかを容易に確診し得べしと云ふ尙其詳細は大日本私立衞生雜誌に詳なり

◉大食は瘍の病因

英國の醫學者サー、ウイルリアム、バンクスは曾に英國醫學協會に於て演說して大食若しくは滋養分の過度なる食物を食する時は瘍を生ずる傾きありと

云ひ瘍は壮健なる人に生ずるものなりとの俗説は眞理に適へりと述べたる由なるが英國醫學雜誌は此説を掲げて大食の弊害は一二に止まらず暴飲よりも甚しきものありと結論せりといふ

◉府下の肺病死亡數（東京府調査）

本年一月一日より五月三十日に至る五ヶ月間府下十五區八郡に於ける肺病患者の死亡數は左の如し

但し郡部に於ける五月分は報告未だ完結せざるを以て之を缺く

		市部	郡部	合計
一月	男	三九七	七四	四七一
	女	二七九	六六	三四五
二月	男	三〇〇	一〇七	四〇七
	女	三〇〇	九四	三九四
三月	男	三四三	九七	四〇四
	女	三〇一	八八	三八九
四月	男	二八五	七八	三六三
	女	二五二	七六	三二八
五月	男	三〇七	—	三〇七
	女	二四七	—	二四七

◉赤十字社病院船

赤十字社病院船博愛丸は 去月二日横濱を解纜し清國太沽に向け出航せり今や同船は聯合軍の爲め如何に救護しつゝあるかと云ふに同船は大沽より負傷者及病患者百六十三人（内佛國人三十九人）を收容せり負傷者は何れも重傷者のみにて患者は重もに赤痢病の類なり傷病者の慘憺たる 彈丸の爲め大腸を貫通せられ 大便背部に排出し全脈旦夕に迫まるが如き 其他傷病人の慘酷なる 實に目もあてられず悲哀の情殆んど禁ずる能はずといふ 顧て赤十字社員を見れば 頗る繁忙を極め飲食をも忘れて 治療に餘念なく 看護婦の如きは船暈の爲め何れも半病人の躰なりしにも 拘はらず嘔吐しつゝ 傷病者を勞り介抱する樣懇切周到親戚故舊も 敢て及ばず如何に傷者病を 安心滿足せしむるか は見る人をして 轉た涙に咽ばしむべしと兎に 角戰役中赤十字社病院として實地に就き患者を收容治療するは實に本船を 以て始めとす眞に博愛主義の 洪大なる文明の美事と云ふべきなり 尙其乘組員は左の如し

理事	豫備海軍大主計	林一雄
醫長		岩井禎三
醫員		島谷、野口、北島の諸氏
調劑		渡部勝四郞
		外助手二名
看護婦長		佐藤梢子
		外十人

看護人長　二人　看護人總長　三人　看護人　二十八人

磨工　壹人

◉印度飢饉の慈善音樂會

印度は千八百九十七年我が明治三十年に於ける飢饉

の餘殃尙未だ全く去らざるに再び今回の大飢饉に遭遇し幾万の生靈は家に一椀の炊ぐべきなく村に一家の寄るべきなく空しく飢渴を天に訴へ死を待つの慘狀實に名狀すべからずと云ふ此頃我國留學生なる印度人ロヤカント、ライ及プラン、シングの兩名は菊地大學總長以下の賛助を得て過日來救助金募集中なりしが此事を聞き込る我國慈善心に富める貴婦人諸氏はいかでか傍觀するに忍びんや本會の濱尾、鳩山、菊地夫人田中宮內大臣夫人其他十餘名の貴婦人は東洋靑年會の發企を助けて去月上野音樂學校に於て義捐音樂會を開きたりしが望外の盛況にて千圓以上の義捐金を得たりと云ふ印度に於ては一日僅に四錢を以て一人の命を救ひ得らるべしとのことなれば此金を以て多數の飢餓を救ふことを得らるべし右は直ちに印度領事宛電報替爲を以て義送し一刻も早く救助の道を講ぜらる可しと誠に慈善の事と云ふべし

◉大日本私立衞生會第十八次總會

同會に於ては本月六日を以て富山縣富山市西別院に於て第十八次總會を開き三百餘名の出席あり檜垣支會長の開會の式辭に次で本會々頭代理三宅醫學博士の祝辭其他大家の演說及報告等あり終りて宴會を開き頗る盛會なりしと本會へも案內を送られたり

◉廣島及松江醫學圖書館設立

此度同地醫師名望家等の發企により廣島に醫學圖書館を設置し斯道に關する圖書を蒐集し汎く志學志望者の自由閱覽に供すと又出雲松江にても木幡久右衞門氏館長として松江圖書館を開設せりとて何れも本會雜誌の寄送を求めたり此種の有益なる事業の續出するは誠に喜はしきことなり

◉近事談片

●ベルツ博士　我國醫學の進步を助け其功益の大なることは人の知る所なり今や一年間の賜暇を得て去

る十七日本國なる獨逸に歸省せられたり氏は是迄八年目毎に一回一年の賜暇を取り今回にて三回目なりしと國元には八十になる母の居らるゝので是非其生存中逢ひたしとて今年歸國せらるゝなりと時事新報記者訪問記中より聊か左に有益の個條を拔書せん

●氏は明治九年今の青木外務大臣が獨逸の公使を在勤して居られし頃四年の約束で來朝せしに今や二十四年間日本に滯留するに至りしと

●氏の手掛けた病人で元勳とか功臣とか言はるゝ人では木戸さんや寺島さんが一番早く其他岩倉三條さん井上伯も一度酷い腦病を御煩ひになりました時治療致しましたが腦と云ふものは餘り使ひ過ぎますと勞疲れます兎角病家でははやく私に御見せになるとよいがイツも遲いので困りますと言つたことが澤山あります●伊藤さんは四五年前少し弱ツた樣でしたが昨今は四五年前より御若くなつて旅行などなされた時は顏の色がつや〱して元氣なものです彼の位ひ攝生に御搆ひないお方がドーシテアー御丈夫ですか不思議です云々

●博士來朝の目的は單に藥のみで病を癒すと云ふ考でなく躰操とか或は海水を浴するとかいふことを御勸めして衞生の普及を目的とした

●日本人は温泉に行くとか遊山に行くとか云つても只寐て計り居て一向運動といふものをしないが西洋人は山に行けば終日山を歩行き又温泉にイツてもよく運動致しますと博士の言ふ所誠に尤なり

●西洋では貴族の子供は下等のものより壯健ですが日本の貴族の息子さんや姫さんはドウも御附きの人が多いので一寸としたこともソレにさせますソレで自然インデペンデント（獨立）がなくなつて知らず〱柔弱に陷るのです併し二十四年前の生徒よりは今日の生徒の方が一般に身躰は丈夫になつたようで

す

●人間と云ふものは病氣になつてから直すことは六ッかしいものですから健康の間に注意しなければならぬのであります

●日本は米食が重もですが肉食丈なればソウ動かぬでもよいがドウも米食は運動が十分でないといかぬ様です其證據には日本でも百姓などは運動がよいから誠に丈夫です

●日本の外科術の進歩は驚くべきもので今回北淸事件で負傷兵を横濱の病院に見舞ましたが昨今の氣候では怪我をすると直に腐りますが何れも皆なんともない實に進歩したものです此外北里氏の黴菌學の進歩も又著るしいものですと

●近頃日本に女子大學を設立さるゝ御話しがありますが私は賛成しません女子は矢張り普通の敎育をして躰育を盛にして戴たい日本は西洋と違ひ嫁に往かれない人はないが西洋では嫁に行かないものが澤山ですから夫れ故獨立の出來る修業をしますものゝ兎角大學でも卒業した女だと夫婦の間柄が中々旨くいきませぬ遂に不和を生じ夫は面白くないから藝者買ひに行くやうになります夫れ故日本の婦人に高等の敎育を授けるのは子供に御菓子をやつて喰べてはいけぬと云ふ様なもので學問しても實地に行ふことが出來ませぬ

●氏は日本の高山は登らぬ所はない位で西は長崎から北は北海道悉く歩行きまして至る所温泉場にイッテ其泉質空氣等を研究して温泉に行く參考に供して居りますと氏は人類學研究に心を委ね一生涯の中には完成する見込なりといふ（ベルツ談終）

◉大磯の繁昌　東海道國府津町は昨今赤痢流行の傾きあり爲めに大磯大繁昌にて何れの旅店も滿員にて素人屋別莊の人を合すれば二千餘名に達すべしとい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふ

●密賣婦收容院　密賣婦の强制治療を加へしむべき黴毒患者を收容すべき病院は高輪病院、麹町回生病院、淺草樂山堂病院、下谷丸茂病院、新宿日原病院、八王子松井病院等なりといふ

●人体鍍金法　學問なくして外貌を飾るをメッキ學者天麩羅學者と惡口すれども近頃の米國新聞に記す所によれば現にヒラデルヒヤ府の一富者は其亡妻を學理的作用を以てメッキして銅像を造り之を居間に安置して自から慰めりと是は米國が初めて發明したるにあらず七八年前既に巴里病院に於ては生後六ケ月の孩女によりて一個の小銅像を造りたることありと若し眞ならば學術も亦進みたりといふべし

●肺結核の注射液　獨逸の大家ランデルレル氏は盛に肺結核の患者に向て桂酸鹽の靜脈注射を行れるが初期の患者には頗る効ありし如く思はると久しく獨逸に滯在したる緒方銈次郎氏は其施術を見且其藥劑を攜へ歸りたれば同患者に試むべしといふ

●大坂府下のペストと捕鼠藥　大坂府下にては既に一ケ月餘絶へて發生を見ず全く熄滅に歸したるが如しと云へども未だ安心ならざれば此際充分の警戒を爲しつゝあり彼の捕鼠藥の如き劇藥入の食餌は危險なれば之に唐辛の粉末を入るゝことゝせしよし然るときは子供の假令ひ之を口にするも辛味の爲め之を嚥下せざるべしとの考案に出でたりといふ

●府下流行病　東京市に於ける本年一月一日より七月末迄の流行病數コレラ三人赤痢百七十人膓窒扶斯三百七十七人疱瘡三人猩紅熱七人實布垤里亞七百六十六人合計千三百二十六人なりと

●孟買の虎病と香港の黑死病　孟買のコレラ病は五月に百六十六人六月に三百三十九名の死者を生じ七月に死者千百六十七名の多に達し本月に入り十日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

迄に五百九十四名の患者を出し内四百四十九名死亡せり就中飢饉の災厄を受けし地方殊に甚だしくグンショブの如きは七月廿五日迄に二万五千の患者を生じ内一万三千人死亡せりと又香港黑死病は去月十四日に終る一週間の患者五十七人死者五十八人本年一月以降總數八百八十二人死者七百九十八人なりといふ



養生訓

●先頃來氣候の不順より赤痢蔓延の傾きあり赤痢病の注意は本誌の屢々記載する處なるが時節柄左に其大意を揭げん●赤痢は多く晩夏晩秋に尤も多く行はるゝ病氣なり●原因は一種の捍狀黴菌にして多く飮食物の不攝生より起り易し●赤痢のバチルスは恰も髮の毛一本の切り口を縱にならべて三四百位並ぶ位のもの故蠅や蚊の口や足に附着しては傳染の媒介物となる●患者の糞便及汚物は十分の消毒を要す●消毒藥は十倍の水に溶かしたる石灰乳●二十倍の石炭酸（之に鹽酸なり稀鹽酸を加ふべし）昇汞は五百倍とし之に食鹽なり鹽酸を加ふべし熱氣消毒は百度以上の熱に少くも十分間以上入れ置かざれは安心ならず●赤痢は潜伏期とて三日乃至八日潜伏し時々腹が痛むとか鳴るとか食物が進まぬとか下痢を起し若くは秘决したり不規則となる●ソレより屢々厠に上るも通じ少く輕きは一日數回通常二三十回多きは五十回百回以上のものあり●便は輕きものは普通黃色の便中に粘腋加はり後には白き粘腋性となる又は粘腋性に血液を混じ若くは血便に粘腋の入りわるもの此二ツは重もに赤痢に特異なる症候とす●其輕きものは早く治すべきも重きは四週間以上に渉る●死

亡數は統計によれば百分の七乃至十にして九十人は癒る割合なり日本にては二十五プロセントにして百人に付二十五人の死亡數に當り割合に死亡多し是はマダ隱蔽者の多きか爲めなるべし●總て赤痢の流行時には腸胃の病にかゝらぬ樣爲すをよしとす一と口に言へば食ひ過ぎか一番悪い總て適度に食すること、注意が必要なり●去る頃衛生局長が青梅へ巡視のとき水瓜はドウでしやうと局長曰く適度に食ふてよいと茲に於て飯の代りに水瓜を食べて腸加答兒から赤痢となつた●又或る處の女中に奥樣の曰く赤痢がハヤルから背越しのものは食ふてはならむ下婢は茄子の味噌合をこしらいた多過ぎて擂鉢に半分殘ツタ明朝まて置くと背越になる今晩の中に食へば格別の事はあるまひと皆食べた間もなく吐くやら下すやら大さわぎとなつた●無敎育の下女には誠に困る小供を車に乘せて炎天を率き廻し剩へ坂をおりるに非常に急激の勢を以て小供を脅かしたり己れ喉の喝したるが爲め路傍の井戸にて水を呑み小供にも又た澤山呑ましめ居るを認めた貴重なる子供を下婢に托すは充分に注意あれ何にをするかも知れず實に危險なるものなればなり●若し赤痢にあらずとも前に述べたる如く腹工合悪しきときは直ちに下劑を用ゆべし(リチ子油凡二十グラム)を水に浮かして用ゆれば忽にして充分の通利あるべしよく通じたる處で(重曹一、硝曹〇、五)合劑(一包に付)を一日三回づゝ用ゆべし●食事は呉れ〲注意して牛乳、おも湯等の流動物を用ゆべし●梅びしほ、食鹽はよし梅ぼしは悪し追々快方に向へば少しつゝ食物を增しかゆを用ゐる半熟の玉子(白身は不可)さしみ(ワサビは不可)などかろく用ゐる樣になしよく養生すべし總て胃腸病は食物に關係を有すること極めて大なりといふべし●但し素人療治は危險なれば可成早く醫師の診斷

を請ふこそ尤もよけれ●本年は暑氣極めて強きが爲め氷屋は非常の繁昌なるが玉子入牛乳入アイスクリムーの如き時に腐敗に傾かんとするものも凍氷せしめて胡麻カスあり●又氷の中に赤豆を入れ氷赤豆と稱する下等なるもの是尤も危險なり●氷水中に入るゝ砂糖水の如きも又腐敗せるが爲め變な香のすることあり●要するに氷水は飲用せさるがよし若し飲むなれば氷へ砂糖をかけ用ゐる所謂雪の花先づ一番安全の方なり●氷よりは麥湯若くは白湯の冷やしたるが一番安全にして優れり●但し炎天外出の際餘り多量に水を飲むはよろしからず爲めに腦及肺に充血を來すことあり



大日本婦人衛生會記事

●慈善販賣店臨時開設景況

新潟支會衛生慈善部に於ては基本金積み立の爲め去月七日及八日の兩日を卜し新潟市なる長善寺に於て慈善販賣店を開き役員一同は思ひ〱種々なる販賣店を出し衣服は華美競爭のことありては此會の主意にも違ふことなればと一同申合せ木綿ちゞみの紋附腹合帶にて出席のことゝなし一人も絹の衣服を着けしものなく至極質素になせしかば市中の評判も大によろしく思ひの外の盛況にて九百圓以上の賣り上げに達せりといふ但し東京の慈善會と違ひ賣り附け主義は出來ざりし故品物には何れも正札附とし原價の一割高となせしを以て所得は二百餘圓なりしとは言へ中々の盛會なりしといふ此兩日間役員諸氏は木綿服を着し窮屈を忍びたまには慣れぬ御世辭の一ッも

言はねばならず中々の大奮發にて働かれしといふ右收益金の内百圓は衛生慈善會基本金として積立て他の百圓は新潟なる帝國婦人協會女子工藝學校へ寄附し尚殘金は印度飢饉及其他の慈善事業に寄附せりと此會は本年以降毎年一回づゝは催す筈なりといふ　因記同支會にては集會の節は役員會員共に冬は黑金巾夏は木綿ちゞみの紋附と定め何事の集會にも殘らず此服を着用することゝて誠に都合よく隨て全躰の風俗も宜ろしくなりしとのことなり

販賣店擔當

羽織紐帶ごめ帶上るい店　評議員 土田夫人　同 中村夫人　宇佐美看護婦長　理事 中野みつ子
あみ物店　鹿兒島夫人　中村夫人
瀬戸物店　幹事 大桃夫人　評議員 神尾夫人
第二吳服店　副會長 小柴夫人　會員 丹羽助産婦　同 能勢夫人
小間物店　幹事 高橋夫人　會員 廣瀬夫人
ぬり物店　評議員 古閑夫人　前評議員 清水夫人
雜貨店　會員 吉田夫人　同 沼野夫人　山中いさ子
第一吳服店　評議員 鍵富夫人　同 河上夫人
帝國婦人協會女子工藝學校店　會長 千頭夫人　評議員 井原夫人　會員 湯原夫人　同 野中教師
手遊店　評議員 都築夫人　會員 馬場夫人
第一唐物店　評議員 稻津夫人　會員 三村夫人
煙草店　評議員 若松夫人　同 田代夫人
小說店　會員 長井夫人　同 羽田助産婦
第二唐物店　會員 吉村夫人　同 加藤夫人　同 宮岡夫人
紙店　會員 松野夫人　同 今井夫人
茶ラムネ菓子店　幹事 池原夫人　評議員 安原夫人　同 水野夫人　松野令孃
其他令孃方

◉臺灣通信

在臺灣なる記者の友松住臨太郎氏には臺灣衛生事情の報導會員誘導の事を依托せしが追々別項の如く入會者の紹介あり尚本會より同氏に送りたる本會設立趣意書を在臺灣の新入會員諸氏へ配布する際左の書面を添へて勸誘すべしといふ氏の熱心なる必らず將來好結果を見るに至らんが尚會員諸氏の臺灣に知己を有せらるゝあらば入會の諾否に關はらず其宿所姓名を本會に報導指示せられて勸誘上に便宜を與へられんことを祈る

各位が平常衛生に御心懸厚きを以て衛生會の趣意を御賛成に相成御入會に付御紹介申上候何卒益々此道を御實踐相成候樣希望仕候

御承知の通り臺灣は氣候宜しからぬ地と人々覺悟致し居候へば政府の行ふ衛生法も厳重に候へとも各自一家の衛生は猶更大切の事と存し候間各自相務め病を未發に防ぎ快樂に生活を遂ぐる途を究め度存候斯の道に就き疑はしき廉も御座候はゞ憚りなく本會に向ひ御質問成下されたく又各位が保健の上に就き御心付きも之れ有り候事は細大となく本會へ御通報下され度候それによりて此後當地へ出向かるゝ會員方も各位の實驗を承りて少からぬ便利を得られ本會の趣旨は益々博く行はるゝ事に相成るへくと存候御同好の方へは各位の御希望と本會の趣意とを合せて御傳へ下され度候篤志の貴婦人は本會の喜び迎ふる處と信し申候委細は相添へ候別紙本會設立趣意書にて御承知下され度斯の如くに御座候敬具

◎會員種類變更（七月）

終身會員　舊通常會員　三宅ふじ子

本會入會者

○山形支會より移轉の爲め本會へ入會

●栃木縣宇都宮病院内　通常會員　淺田とみ子

●仝所　通常會員　中村やの子

●仝所　通常會員　吉川いと子

●豊後國臼杵町四十八番地　通常會員　田中蘭末子

○新潟支會理事　中野ゑつ子紹介

●福島縣福島市福島病院内　特別會員　水野とら子

○臺灣　賛成員松住臨太郎君紹介

●臺灣台北東北邊街乙第三號三室　通常會員　田村ませ子

●仝乙第四號三室　通常會員　杉山幹子

●仝乙第四號五室　通常會員　佐藤喜枝子

●仝乙第四號九室　通常會員　河村初子

●仝丙第一號七室　通常會員　田浦龜子

●仝台北城内土地調査局官舍に號一號　通常會員　鈴木きん子

○臺灣　佐藤喜枝子紹介

●臺灣台北東門邊街乙第四號六室　通常會員　赤尾ひさ子

●仝所七室　通常會員　青木いろ子

○麹町　橋本貞尾子紹介

●牛込區下宮比町六番地　通常會員　大谷政子

○神田　堀かた子紹介

●麹町區内幸町一丁目三番地　通常會員　米井鶴松子

○麹町　塚本靜江子紹介

●府下八王子元横山町七百十六番地　通常會員　岡本くま子

○長野　芦澤きくの子紹介

●長野市日本赤十字社支部看護婦養成所　通常會員　春原まつ子

●仝所　通常會員　玉井ちとせ子

●仝所　通常會員　近藤ちゑ子

●仝所　通常會員　平野とし子

●仝所　通常會員　佐野久子

○役員　西升子紹介

●神奈川縣愛甲郡厚木町　通常會員　澁谷さい子

●仝所　通常會員　内田かね子

●仝所　通常會員　松尾榮枝子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●神奈川愛甲郡厚木町　通常會員　竹村すゞ子

○麹町　木島みの子紹介

●麹町區富士見町一丁目廿八番地　看護婦會通常會員　大橋小榮子

○事務所へ申込

●芝區三田四國町十五番地　通常會員　近藤花子

●神田區駿河臺西紅梅町六番地彌生看護婦會本部　通常會員　堀かた子

●芝區愛宕町三丁目一番地　特別會員　林美代子

●新潟市上大川前通十番地六番戸　通常會員　藤田りた子

●府下北豐島郡王子村千二百八十六番地　通常會員　坂野鈴子

○淺草　濱野とく子紹介

●淺草明治病院　通常會員　原田みや子

●仝所　通常會員　浦田春子

○芝區　芦山操子紹介

●芝區三田四丁目七番地　通常會員　大木次子

○日本橋　杉浦糸子紹介

●日本橋區久松町廿九番地　通常會員　青山光子

○帝國生命保險會社員岩田年三郎君紹介

●本郷區元町一丁目廿六番地　通常會員　岩田くら子

○新潟支會入會者理事中野ゑつ子氏より

吉田柳子　水島川ふみ子
神林むつ子　渡邊くら子
金庭とも子　甲斐きく子
清水うめ子

（以下次號）

○羽後　山形鈴木芳子紹介

●羽後國飽海郡酒田町本町五丁目　通常會員　本間ふじへ子

○甲府賛成員　窪田子貞君紹介

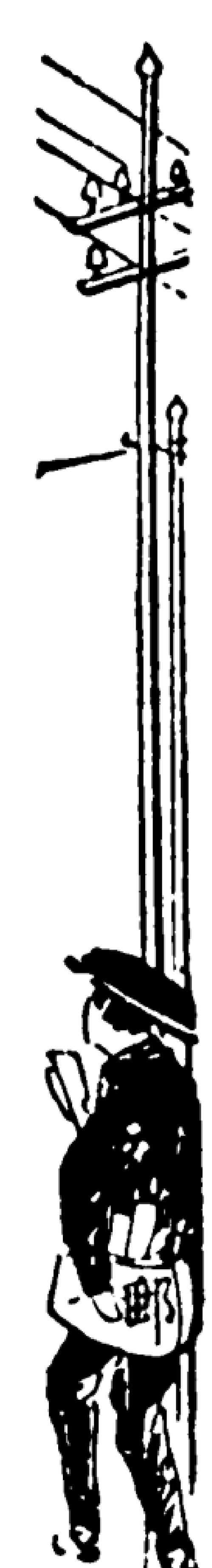
●山梨西山梨郡千塚村一二五　通常會員　小幡とくの子

●仝百四十番戸　通常會員　内藤きよの子

●仝　通常會員　西村とし子

●仝　通常會員　窪田るい子

轉居



會員諸氏御轉居の際は必らず乍御手數事務所宛御一報相願候

●赤坂區青山高樹町三番地へ　大井上かね子

●高知市西弘小路官舍へ　久保田不二子

●赤坂區溜池榎坂町四番地へ　岩野きせ子

●群馬縣前橋市細ヶ澤町二番地へ　水野けい子

●長崎市引地町九番戸へ　美島近一郎君

●相州横須賀深田二百四十二番地へ　清水富喜子

●神奈川厚木町字宮洲町三五八六番地へ　中村久眞子

●相州小田原町万年町四丁目六百七十七へ　河村孝子

●岐阜縣岐阜中學校長官舍へ　高木操子

●本郷區湯島天神町一丁目六十四番地中井新一方へ　服部もと子

- ●豐後國臼杵町四十八番地へ　田中蘭末子
- ●熊本市京町本町十番地池松信房方へ　佐藤粂子
- ●廣島市大手町八丁目川村正巳方へ　川村もと子
- ●伊勢四日市市濱田町山田嘉右衞門方へ　山田くま子
- ●仝鈴鹿方關中町山中善七方へ　山中たか子
- ●麹町區永田町二丁目一番地鍋島邸內へ　早田純子
- ●麹町區有樂町三丁目一番地へ　奥村ちゑ子
- ●神田區駿河臺紅梅町彌生看護婦會へ　山本かよ子
- ●麻布區廣尾町七十九番地へ　兒島悦子
- ●麻布區市兵衞町二丁目六十七番地へ　棟居みち子
- ●本所區石原町卅五番地伊藤淺太郎方へ　岸田とり子
- ●芝區葺手町十七番地へ　山際春子
- ●芝公園地四號へ　木村ふし子
- ●下谷區池ノ端七軒町五十一、渡邊守一方へ　牧野ふみ子
- ●京都上京區塔ノ段櫻木町へ　和辻愛子
- ●新潟縣南蒲原郡信條村大字西野へ　廣川歌子
- ●茨城縣猿島郡古河町字古河丸山發一方へ　杉原昌子
- ●讃岐國多度郡與北村字西原三百六十二へ　石川暢子
- ●日本橋區蠣殼町三丁目十一番地へ　粂子とき子
- ●横濱市十全醫院內へ　磯部しくに子
- ●千葉縣木更津町木更津病院內へ　村松しむ子
- ●芝區西久保巴町十六番地へ　玉木豐子
- ●淺草區猿屋町十七番地川上館方へ　古川節子

弔詞

本會通常會員　山崎藤子には今回死亡せられたりとの報に接し本會は

謹みて哀悼の意を表す

◉交換寄送雜誌（七月分）

（イロハ順）

●日本婦人	第九號	東京帝國婦人協會
●日本産婆學雜誌	第七號	東京日本産婆學協會
●日本赤十字雜誌	第八十七號	東京日本赤十字發行所
●二十世紀醫學	第十九號	
●統計集誌	第二百三十二號	東京統計協會
●統計學雜誌	第百七十一號	東京統計學社
●中外藥報	第三十二號　第三十三號	中外藥報社
●獵友	第一卷六號	東京狩獵協會
●看護婦人	第一號	看護婦人協會
●體育	第八十一號	日本體育會
●大日本私立衞生雜誌	第二百六號	大日本私立衞生會
●團々珍聞	第千二百七十八號	東京珍聞館
●藥學雜誌	第二百二十一號	東京日本藥學會
●藥石新報	第三百六十號　第三百六十一號　第三百六十二號	大坂藥石新報社
●婦人新報	第三十九號	東京婦人矯風會
●婦女新聞	第八號第九號第十號　第十一號第十二號	婦女新聞社
●國家醫學會雜誌	第百五十九號	東京國家醫學會
●工業雜誌	第二百一號	東京工業雜誌社
●越佐教育雜誌	第九十一號	越佐教育會雜誌社
●天然足會報	第二號十三冊	臺灣松住臨太郎氏寄送
●産科婦人科學雜誌	第二卷十一號	東京日本産科婦人學會
●教育實驗界	第六卷一號　第六卷二號	東京育成會
●彰善會雜誌	第二十九號	東京彰善會本部
●淑女	第二卷七號	東京紫鸞社
●女學講義	第二回三十三卷	東京大日本女學會
●廣島衞生醫事月報	第十九號	廣島衞生醫事月報社

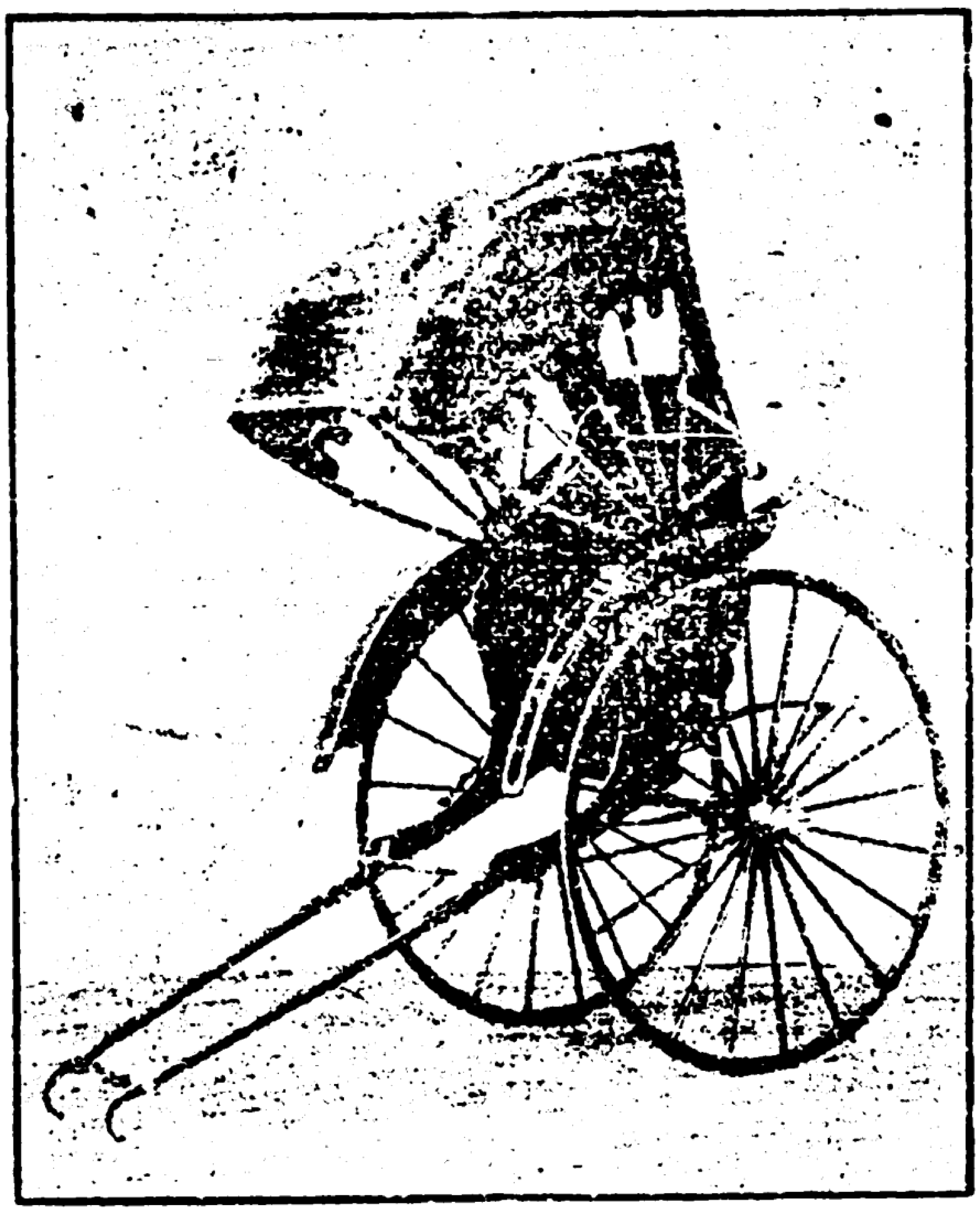
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農商務省貿易品陳列館及び上野公園商品陳列館に上等人力車出品有之候

保險附人力車大販賣廣告

弊店儀從來人力車製造販賣罷在候處大方諸彥の御引立を蒙り日に增々盛大に相成候段厚奉深謝候弊店製造の人力車は車躰構造の堅牢なること形狀の格好よきこと殊に車の出方至て輕くして轅子の勞力を省き且皆樣方のお乘好きこと等は已に世人の定論も有之候猶今後益々大勉强を以て製造販賣仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言

漆細工は本邦特有の技術に有之候へば益々改良進步の道を謀り益々邦人の技能を發揮せさるへからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に内外人の不信を來し我が特技たる斯業も今や振はざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪えず候小生大に感ずる所有之乍不及徐々挽回の策を講ぜんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極堅牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゞ早速參堂可仕候頓首



保險附人力車製造販賣店

東京本鄉春木町二丁目五十六番地

伊東竹三郎

見よ!!!本邦唯一の女子專門新聞紙!!!見よ

贊成家

公爵近衛篤麿君◎子爵一柳末徳君◎華族女學校長細川潤治郎君◎同教授阪正臣君◎帝國教育會長辻新次君◎日本弘道會長西村茂樹君◎文科大學教授元良勇治郎君◎同萩野由之君◎女子高等師範學校長高嶺秀夫君◎同教授野口保興君◎同關根正直君◎同附屬高等女學校主事篠田利英君◎文部省視學官中川謙二郎君◎東京府第一高等女學校長伊藤貞勝君◎大和田建樹君◎巖本善治君◎吉村寅太郎君◎成瀨仁藏君◎下田歌子君◎三輪田眞佐子君◎棚橋絢子君◎中島歌子君◎其他尙十數名

婦女新聞

每週月曜

一部定價金二錢五厘　郵稅五厘
半年前金郵稅共七十二錢一年一圓三十錢爲替振込は本所局郵劵代用は三錢或は五厘切にて一割增

第十四號　八月十三日發行

初號以下取揃　御注文に應ず

本紙は五月十日皇太子殿下御慶事の當日を以て生れ出でたる本邦唯一の女子專門新聞紙なり發行以來滿天下女子諸君の同情を得て基礎漸く固まり將に婦人界の一大勢力たらんとす苟くも婦人問題を研究せんとする人全國婦人界の消息を聞かんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず本紙の目的は婦人の幸福を增進せんとするにあり卑猥なる文字は固く之を避くと雖も高尚なる趣味は津々として紙上に溢る夫人令孃女敎員女學生女醫看護婦其他あらゆる階級あらゆる職業の婦人諸君希くは來りて自己の味方の働きぶりを見そなはせ

東京本所區横網町一丁目十九番地
婦女新聞社

大賣捌所　東京堂、北隆館
東海信文合資會社

私立大日本衞生會

●新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衞生會に協し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員	一時限り出金	貳拾圓
特別會員	毎月	金參拾錢
通常會員	仝	金貳拾錢
支會員	甲　毎月	金拾錢
	乙　仝	金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

私立大日本婦人衞生會

●山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す

第三條　役員の任期は一ヶ年とす

第四條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第五條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第六條　本會々費は會計幹事に納むべし
但し六ヶ月又は一ヶ年分
新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第七條　服裝は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衞生會
山形支會
事務所山形市檜物町川上方

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●大日本婦人衞生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たるを欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子贊成員亦同じ

一男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別贊成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一集會は例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす

但每會學識經驗ある者に衞生上の講義演説談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を陪聽せしむるを得(勸めて衣服は質素たるべきこと)

一講義演説等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も贊成員の外は本會の都合に由り臨時謝絶することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一會費は東京府下に限り每月會費領收人を差出すべし地方會員入會の際は前金を以て會費三ヶ月分又は六ヶ月一ヶ年分を納付せらるべし

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送投として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	一行	八錢
	一頁	參圓
	總て前金	

本會廣告取次　東京神田末廣町一　博報堂　電話本局一四四

本誌定價一部二十錢　每月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衞生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　戸上義章

東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場

(明治二十六年四月四日)遞信省認可　(明治二十一年二月二十八日)內務省認可